

平成 28 年度 浦安市青少年海外派遣事業報告書



目次

1.浦安市青少年海外派遣事業を終えて	1
2.姉妹都市交流とは？	}
3.浦安の姉妹都市～オーランド市～	
4.浦安市青少年海外派遣事業とは？	
5.オーランドってどんなところ？	
6.平成 28 年度浦安市青少年海外派遣事業実施計画	4
7.浦安市青少年海外派遣選考委員会の設置及び運営に関する要項	6
8.平成 28 年度浦安市青少年海外派遣選考委員名簿	7
9.平成 28 年度浦安市青少年海外派遣生名簿	8
10.派遣生紹介	
開沼 優希	9
八巻 遼	10
大日向 さや	11
新田 陸人	12
佐藤 亜美	13
小島 朋奈	14
山中 恵里那	15
古室 早理	16
箕部 晴心	17
篠原 怜	18
11.平成 28 年度浦安市青少年海外派遣生の選考	19
12.平成 28 年度浦安市青少年海外派遣事業実績	
事業スケジュール、海外派遣中のスケジュール	20
事前説明会(保護者参加)、第 1 回事前研修会、第 2 回事前研修会	21
第 3 回事前研修会、OB・OG との交流会	22
本研修	
3月 11 日(土)	23
3月 12 日(日)	24
3月 13 日(月)	26
3月 14 日(火)	27
3月 15 日(水)	28
3月 16 日(木)、3月 17 日(金)、3月 18 日(土)	30
3月 19 日(日)、3月 20 日(月)、事後研修会、報告会	31

13.派遣生報告書

(1) 内容別報告

ドクターフィリップス高校の授業参加	箕部 晴心	32
ドクターフィリップス高校の授業参加	佐藤 亜美	34
URAYASU ナイト	小島 朋奈	36
URAYASU ナイト	篠原 怜	38
消防署	古室 早理	40
エオラ湖・オーランド市役所	新田 陸人	42
ZEBRA COALITION	八巻 遼	44
ヒストリーセンター・ウィンターパーク	開沼 優希	45
BOYS & GIRLS CLUB OF AMERICA	大日向 さや	47
ケネディスペースセンター	山中 恵里那	48

(2) ホストファミリーとの思い出

開沼 優希	50
八巻 遼	52
大日向 さや	53
新田 陸人	55
佐藤 亜美	57
小島 朋奈	59
山中 恵里那	61
古室 早理	63
箕部 晴心	65
篠原 怜	67

(3) 海外派遣の思い出

開沼 優希	69
八巻 遼	71
大日向 さや	73
新田 陸人	74
佐藤 亜美	76
小島 朋奈	78
山中 恵里那	80
古室 早理	82
箕部 晴心	84
篠原 怜	86

14.英語による日本紹介 各グループの発表資料

Group A 新田 陸人、開沼 優希、小島 朋奈	88
Group B 八巻 遼、古室 早理、篠原 怜	90
Group C 山中 恵里那、箕部 晴心、佐藤 亜美、大日向 さや	93

15.浦安市青少年海外派遣事業のあゆみ

96

1.平成 28 年度浦安市青少年海外派遣事業を終えて

浦安市青少年海外派遣団 団長
市民経済部地域ネットワーク課長 大塚 和則

平成28年度の「浦安市青少年海外派遣事業」も、多くの関係者の皆様と、温かく迎えてくださったオーランド市民の方々のご協力により、無事に終了することができました。

この事業は、姉妹都市交流の一環として平成2年より本市の青少年をオーランド市に派遣し現地の青少年との交流やホームステイのほか、教育施設や公共施設での体験学習等を通して国際的視野を広げ、国際社会を担うにふさわしい人間を育成するとともに、親善大使として国際交流の促進を図ることを目的に実施しており、これまでの参加者は今年度の派遣生を含め297名となっています。

今年度は、派遣生10名、市随行者2名、添乗員1名の計13名で訪問しました。

派遣生は選考委員会が、参加を希望する市内在住の高校生を、面接と英語の試験を通して選考しました。

派遣期間は平成29年3月11日から20日までの8泊10日で、派遣までに事前研修を3回、帰国後に事後研修を1回実施しました。

派遣生たちは、ほとんどがお互い初対面同士ということもあり、はじめは緊張気味でしたが、事前研修を通じてコミュニケーションを深め、派遣中はリーダーを中心にチームワークも良く、浦安市の代表としての自覚を持ち積極的に行動していました。

オーランド国際空港到着時には長旅の疲れが感じられた派遣生たちでしたが、その直後には、一人ひとりの名前を掲げ温かく迎えてくれたホストファミリーとの感動的な対面とともに、多くの関係者の方々からの出迎えを受け、派遣生たちの表情が一気に明るい満面の笑顔に変わっていった時の様子がとても印象的でした。

オーランド市の方々のホスピタリティに触れたことで、派遣生たちの心の中には、これまでにない新たな感動や気づきが様々にあったことだと思います。各自がこの派遣を通して、自ら掲げた目標にも大きな成果を上げることができたのではないのでしょうか。

これからの社会を担って行く派遣生の皆さんには、今回の貴重な体験を大いに生かし、今、若いこの時だからこそチャレンジできることに、ぜひ積極的に取り組んで欲しいと思います。

そして、何よりもこの体験を通して得た「心の触れ合い」を大切に、共に参加した仲間との交流はもちろんのこと、遠く離れたオーランドの家族や友達との交流を続け、それらをステップに、さらに大きく羽ばたいて行くことを願っています。

終わりに、この事業にご理解とご協力をいただいた皆様にご心より感謝申し上げます。

また、報告書に掲載しました派遣生それぞれの報告内容をご一読いただき、青少年海外派遣事業を通じて大きく成長した様子を感じていただければ幸いです。

2. 姉妹都市交流とは？

姉妹都市のルーツは米国と言われています。第2次世界大戦終結後、本当の世界平和をもたらすには市民レベルでの交流が必要だと、米国のアイゼンハワー大統領によって提唱されました。さまざまな国の市民同士が友達になりお互いに理解しあい、協力しあうことが、ひいては国同士の相互理解と協力を結びついていくということが認識されてきたのです。

そしてこの運動の輪は世界中に広まり、本国米国だけでも1,100を超える都市が姉妹都市交流に参加し、日本でも約850の自治体が姉妹都市を持つにいたっています。

姉妹都市交流を通じて、私たちは異なった文化を持つ人々とのふれあいをより身近に体験することができます。この地球上には何千、何万という異なった文化があり、今やそれらは私たちの生活とは決して無縁であるとは言いきれない時代になっています。姉妹都市との交流は、私たちが真の国際人となっていく過程の第一歩であるとも言えるのではないのでしょうか。

3. 浦安の姉妹都市～オーランド市～

昭和62年から市民の団体「浦安市国際交流協会」により姉妹都市の選定が始まりました。様々な勉強会や議論を経て複数の候補からオーランド市を選定した後、平成元年10月23日にオーランド市で、続いて平成2年1月27日に浦安市で姉妹都市協定の調印式が行われました。平成元年は浦安が村として誕生してから100年目にあたる記念の年であり、提携は浦安誕生100周年を記念する1大イベントとして祝福を受けることになりました。

4. 浦安市青少年海外派遣事業とは？

浦安市とオーランド市との姉妹都市提携を機に、青少年での交流を促進することを目的として、平成2年より浦安市青少年海外派遣事業が実施されています。浦安市青少年海外派遣事業では、市内在住青少年をオーランドへ派遣し、ホームステイ、現地高校授業体験、市内施設見学、市庁舎訪問など、市民や青少年との交流を図っており、これまで23回、297名を派遣しました。

感受性豊かな時期に、外国の文化や習慣を実際に体験し、様々な交流を持つことで、国際的視野と豊かな国際感覚を身につけてほしいと考えています。

なお、青少年交流の他にも、スポーツ交流、学校交流、障がい者交流など様々な分野で交流が行われています。

5.オーランドってどんなところ？

アメリカ合衆国 フロリダ州オーランド市

位置：西経 81 度、北緯 28 度
オーランド市との時差＝日本時間－14 時間（夏時間の場合は－13 時間）

気候：亜熱帯性気候

年平均気温：22℃

面積：295.3k㎡

人口：253,355 人(2014 年 1 月末)

市制施行日：1875 年 7 月 31 日

オーランドは元来、柑橘類などを中心とする農業で栄えた町でしたが、オーランド近郊にケネディ・スペース・センターやディズニー・ワールドができたことにより、急速に成長をはじめました。

市近郊には、ディズニー・ワールドのほか、ユニバーサル・オーランド・リゾート、シーワールドなど、いくつものテーマパークがあります。そのほかにも、100 を超えるゴルフ場やリゾートホテルが林立し、多数のショッピングモールもあります。

全米屈指の観光・保養都市として発展している一方、手つかずの自然環境も大切に、「シティー・ビューティフル（美しいまち）」を合言葉に、環境保全・自然保護にも取り組んでいる美しいまちです。

オーランド市の位置図



6.平成 28 年度浦安市青少年海外派遣事業実施計画

1. 目的 米国フロリダ州オーランド市との姉妹都市交流事業の一環として本市青少年をオーランド市に派遣し、現地青少年との交流やホームステイ、教育施設などの体験をとおして国際的な視野を広め、国際社会を担うにふさわしい人間を育成するとともに、親善大使として国際交流促進を図る。
2. 主催 浦安市
3. 派遣期間 平成 29 年 3 月 11 日（土）～3 月 20 日（月）8 泊 10 日
4. 派遣先 米国フロリダ州オーランド市
5. 派遣内容 市長表敬訪問、現地青少年との交流、現地高校授業参加、ホストファミリーとの交歓会、ホームステイ、ケネディスペースセンター等の見学
6. 派遣対象 平成 10 年 4 月 2 日から平成 13 年 4 月 1 日までに生まれた市内在住者で、且つ下記の要件を満たすことができる者
 - ①過去に本事業に参加していない者
 - ②心身共に健康で、協調性に富み、派遣計画にしたがって規律ある行動及び団体生活ができる者（派遣生として決定後、健康診断書（自己負担）を提出）
 - ③国際交流活動・地域活動・青少年活動等に関心をもっている者で、帰国後にその成果を積極的に活かせる者
 - ④中学校卒業程度の英語基礎能力があり、簡単な会話ができる者
 - ⑤本人が事前説明会、事前研修会、結団式、事後研修会、報告会に参加できる者
 - ⑥米国フロリダ州オーランド市の高校生が浦安に来訪した際に、ホームステイ受け入れをすること。
 - ⑦市内における国際交流活動に積極的に協力できる者
7. 派遣人数 10 名
8. 募集方法 10 月 1 日号「広報うらやす」及び市 HP（<http://www.city.urayasu.chiba.jp/>）にて 募集
9. 参加費 1 人 金 120,000 円（参加費に含まれるもの：航空運賃、空港使用料、宿泊費、施設入場料、交通費、ツアーガイド料、公式行事中の食事代）
※パスポート申請費用、ESTA 申請費用、旅行保険のオプション追加分は別途自己負担
10. 引率者 3 名(市職員 2 名、専用添乗員 1 名)
11. 選考方法 選考委員会による選考
(別途 浦安市青少年海外派遣募集要領参照)
(別途 浦安市青少年海外派遣選考委員会の設置及び運営に関する要項参照)

12. スケジュール

●10月3日(月)～10月14日(金)

公募期間

●10月20日(木) 16:00～17:30 浦安市役所3階会議室
選考委員会 [主な内容] 趣旨・日程・応募状況・選考基準調整

●11月6日(日) 9:00～14:00 浦安市役所4階会議室
選考会 [主な内容] 選考試験 AM・結果確認及び派遣者決定 PM

●11月27日(日) 9:30～16:00 国際センター研修室
事前説明会(保護者も参加) AM [主な内容] 事業概要説明・日程確認・必要書類提出
第1回事前研修会 PM [主な内容] 自己紹介・事業スケジュール説明・オランダ概要説明・オランダでの発表グループ分け(高校生の視点から日本/浦安、日本の高校生の文化などの紹介)

●12月18日(日) 9:30～12:00 国際センター研修室
第2回事前研修会 [主な内容] ホームステイ・アメリカの文化/生活習慣・オランダでの発表ドラフト提出

●H29年2月19日(日) 9:30～15:00 国際センター研修室
第3回事前研修会及びOB・OGとの交流会
[主な内容] 結団式(市長表敬)・オランダでの発表リハーサル・最終確認(パスポート・ESTA・保険・日程等)・ホストファミリー発表、今年度派遣生とOB・OGによる交流会

●H29年3月11日(土)～20日(月)
オランダ市派遣

●H29年4月5日(月) 10:00～12:00 国際センター研修室
事後研修会 [主な内容] 作文提出・報告会用パワポ作成の説明

●H29年5月14日(日) 9:30～12:00 国際センター研修室
報告会 [主な内容] 発表予行練習・公開報告会

●H29年6月 報告書作成

7.浦安市青少年海外派遣選考委員会の設置及び運営に関する要項

(設置)

第1条 浦安市青少年海外派遣実施計画に基づき、海外派遣生の候補者を審査し選考することを目的として、浦安市青少年海外派遣選考委員会（以下「委員会」という）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を行うものとする。

- (1) 青少年海外派遣生の候補者の審査、選考に関すること
- (2) 前号に規定する事項に関し必要と認められるものに関すること

(組織)

第3条 委員会は、7人以内の委員をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、次の各号に掲げるもののうちから構成する。

- (1) 浦安市市民経済部長
- (2) 浦安市市民経済部次長
- (3) 浦安市こども部次長
- (4) 浦安市教育委員会生涯学習部次長
- (5) 学校法人明海大学からの推薦を受けた者
- (6) 浦安市国際交流協会からの推薦を受けた者
- (7) 浦安在住外国人会からの推薦を受けた者

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、浦安市青少年海外派遣事業がその目的を達成するまでとする。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員長は、浦安市市民経済部長をもって充てる。

- 2 委員長は、会務を総理し委員会を代表する。
- 3 委員会に副委員長1人を置き委員の互選によってこれを定める。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときはその職務を代理する。
- 5 委員長及び副委員長に事故があるとき、又は委員長及び副委員長が共に欠けたときはあらかじめ委員長が指定した委員がその職務を代理する。

(会議)

第7条 委員長は委員会の会議を招集しその議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(報告)

第8条 委員会は、選考審査した海外派遣生の候補者を、すみやかに、市長へ報告するものとする。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は市長の定める機関において処理する。

(補助)

第10条 この要項に定めるもののほか委員会の運営に関し、必要な事項は市長が別に定める。

附 則

この要項は、平成8年4月1日より実施する。

平成13年4月1日一部改正

平成17年3月22日一部改正

平成19年4月1日一部改正

平成26年6月5日一部改正

平成27年9月7日一部改正

8.平成 28 年度浦安市青少年海外派遣選考委員名簿

1	浦安市市民経済部長	石川 豪 三	委員長
2	浦安市国際交流協会からの推薦を受けた者	浦安市国際交流協会 会長 白木 聖代	副委員長
3	浦安市市民経済部次長	指田 裕 司	委員
4	浦安市こども部次長 代理 青少年課長	高柳 幸 志	委員
5	浦安市教育委員会 生涯学習部次長	永井 勲	委員
6	学校法人明海大学からの推薦を受けた者	学校法人明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム学部 ホスピタリティ・ツーリズム学科 教授 上杉 恵美	委員
7	浦安在住外国人会からの推薦を受けた者	浦安在住外国人会 アドバイザー 伊勢 佳奈	委員

計7名

9.平成 28 年度浦安市青少年海外派遣生名簿

	氏名	学年	学校名
1	かいぬま ゆき 開 沼 優 希	高2	県立千葉高等学校
2	やまき りょう 八 巻 遼	高1	私立慶應義塾高等学校
3	おおひなた 大日向 さ や	高2	県立船橋高等学校
4	にった りくと 新 田 陸 人	高3	私立中央大学杉並高等学校
5	さとう あみ 佐 藤 亜 美	高2	私立頌栄女子学院高等学校
6	こじま ともな 小 島 朋 奈	高1	私立青山学院高等部
7	やまなか えりな 山 中 恵里那	高1	県立葉園台高等学校
8	ふるむろ さり 古 室 早 理	高1	私立渋谷教育学園幕張高等学校
9	みのべ はるみ 箕 部 晴 心	高1	県立千葉東高等学校
10	しのはら れい 篠 原 怜	高1	私立大妻高等学校

〔随行者〕

団 長 大塚 和則 (おおつか かずのり)

随行者 内田 麻紀 (うちだ まき)

専用添乗員 加瀬 史絵 (かせ ふみえ)

10.派遣生紹介



氏 名： 開沼 優希

学校・学年： 県立千葉高等学校 2年

○志望動機

小学生の時にこの派遣を知り、ずっと参加してみたいと考えていた。中学に入学してから、英語が好きになり、海外の文化や国際交流に興味を持つようになった。

中学、高校を通して何回かアメリカで異文化交流をする機会があり、その経験を生かせるのではないかとということと、オーランドからの高校生をホストファミリーとして受け入れ、オーランドに興味を持ったことから応募した。

○海外派遣で学んだこと

この派遣では、たくさんの人達と交流することができ、多様性を感じた。特に、現地の高校生と交流することができたのは、貴重な経験だった。国によってこんなに違うのかと驚いたこともあり、学ぶことも多かった。日本にいと、国や人種や民族や言語の違いに触れることはなかなかできないので、インターネットや本などの媒体からでなく、自分の感覚を通して触れることができてよかった。

○今後の目標

将来は海外で働こうと考えているので、いろいろな分野についての知識を取り入れ、多角的に物事を考えられるようになりたい。英語だけでなくほかの言語も勉強してみたいと思っている。また、さらに英語を勉強して、もう一度オーランドに行ってホストファミリーに会いに行きたい。



氏 名： 八巻 遼

学校・学年： 私立慶應義塾高等学校 1年

○志望動機

姉がこの派遣に過去に参加し、充実した時間を過ごすとともに多くのことを学べたと言っていたから。

○海外派遣で学んだこと

自分の言いたいことをすべて英語で伝えなければいけないので、自分が知っている限られた単語とジェスチャーを使って、なんとかしてコミュニケーションをとることができるようになった。また、急に英語で話しかけられても、焦らずに聞き返すことができるようになった。

英語以外の面では、アメリカの日本とは異なる文化に触れ、自分の意見をはっきり言うことの重要性を学んだ。

○今後の目標

私は、今回の海外派遣で初めて海外に行った。そして、日本とは全く異なる環境で現地の方の家にホームステイし、最高の仲間とともに大変多くのことを学んだ。初めての海外がこの派遣で本当に良かったと思う。

この派遣で学んだことは必ず将来役に立つと思う。今後は、国際的な事業に積極的に参加し、今回の派遣で学んだことを生かして自らをさらに高めたい。そして将来は、国際的に活躍できる人間になりたい。



氏 名： 大日向 さや

学校・学年： 県立船橋高等学校 2年

○志望動機

去年この派遣に参加した友達から話を聞いて興味を持ったため。また、アメリカのディズニーに行ってみたかったため。

○海外派遣で学んだこと

ホームステイ先で過ごす中で、自分の英語力の低さを痛感した。でも、英語が通じて、相手の英語がわかった時は本当に嬉しくて「私、外国人と楽しく会話ができるかも！」と感ずることもできた。また、自分の意見をはっきり言うことの大切さを知った。小さなことでも自分の意見をきちんと伝え、そして、周りに気配りのできるアメリカ人の姿を生で感じたことは本当に良かったと思う。

○今後の目標

まず、自分の英語力を高める。特に、会話のスピードについていけないことが多々あったので、それに慣れるようにする。そして、英語だけでなく他の言語も学んで国際的に活躍する人になりたい。また、他の文化と触れ合う大切さを広め、この派遣で得た経験や感動、感謝を忘れずにこれからの人生に活かせるように努力する！



氏 名： 新田 陸人

学校・学年： 私立中央大学杉並高等学校 3年

○志望動機

この海外派遣はオーランドと姉妹都市である浦安市にしかないものであり、他では経験することができない国際交流活動に参加したいと思ったため。

○海外派遣で学んだこと

現地の方々の生活習慣や、食文化などを実際に自分も体験することができた。また食文化だけでなく多くのところで日本とアメリカの違いに気づき、価値観や考え方が変わった。

○今後の目標

今回この派遣で実際に英語を使って話す楽しさを感じることができたが、それと同時に思ったことや伝えたいことを、上手く伝えられないもどかしさや、通常のアメリカ人の会話スピードについていけない悔しさを感じた。

そのため、英語を自在に使うことが出来るようになるために、よりいっそう英語力の向上に励み、次は大学の留学制度などを利用し、アメリカや他の国々にも行きたい。

また、海外との国際交流の機会を見つけ、今後も積極的に参加したいと思う。



氏 名： 佐藤 亜美

学校・学年： 私立頌栄女子学院高校 2 年

○志望動機

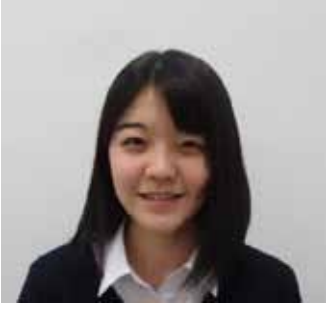
大学生になったら留学をしたいと思っていることもあり、その前段階として現地の授業に興味があったから。

○海外派遣で学んだこと

日本では、毎日 3 食バランスよく食べられることの有難さ。アメリカの格差社会の縮図。

○今後の目標

英語のスピーキング能力を向上させ、様々な国の人と交流を深めたい。



氏 名： 小島 朋奈

学校・学年： 私立青山学院高等部1年

○志望動機

小学生のときに行ったホームステイでは、色々な国の人と話をしたり、考え方を共有することができました。しかし、上手く伝えられなかったことも多々あり、もどかしい思いや悔しい気持ちが残ってしまいました。英語を勉強して、機会があればまた国際交流の場に参加したいと強く思い、自分の力を試してみたく応募した。

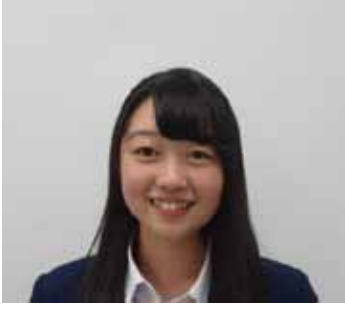
また、自分と年齢の近い海外の人と好きなことや今流行っていることなどを教え合い、友達になりたいと思ったので参加した。

○海外派遣で学んだこと

オーランドにいて一番強く感じたことは、何事も一生懸命伝えようとする気持ちが大切であるということである。ホストファミリーやその友達、現地の人々と会話をするとき、私のままならない英語で伝わるのかどうか心配だったが、みんなが私が頑張っただけ理解しようとしてくれたので楽しんで会話をすることができた。現地の人々はとても優しく、こんな私でもまるで知り合ったばかりでないかのように関わってくれて本当に嬉しかった。

○今後の目標

いつかホストファミリーに再会できた時に十分に恩返しができるよう、自分の英語力の向上に努めたい。そのために、日本で国際交流をする機会があれば進んで参加していきたいと思う。ホストファミリーが、私の英語力に気を遣わなくても会話ができるくらいにまでなりたい！



氏 名： 山中 恵里那

学校・学年： 県立薬園台高等学校 1年

○志望動機

私は小さい頃から様々な国の方をホストファミリーとして受け入れたことがあり、昔から海外に興味を持っていて、また海外の方と交流したいと強く思ったから。また、将来は国際的な仕事をしたいと考えており、この事業で学んだことが少しでも生かされれば良いなと思ったから。今後英語を勉強するためのモチベーションアップに繋げるためや、めったにできない経験を通して自分の視野を広げるためにもこの企画に応募した。

○海外派遣で学んだこと

学んだことは日本の文化とアメリカの文化の違いだ。まず一つ目は、海外の方はとってもフレンドリーで優しいということだ。日本では滅多にないが、現地の方は道を歩いているレジでお会計するときも、気軽に話しかけてくれてすごく楽しい気持ちになった。2つ目はスクールライフだ。紙は使わずパソコンとスマホを使って授業を受けていたり、授業中なのに飲み物を飲んだりお菓子を食ったり、などとにかく自由で衝撃を受けた。また学生は分からないことを恥ずかしいと思わず、積極的に質問をしていたのが印象的だった。3つ目はとにかく色んなものが大きいということだ。家は1階建てが多く横にずっと長くて、日本の家の3倍近くあり、庭もリビングもテレビもすごく大きくて広々としていた。スーパーマーケットもものすごく大きくてなんでも手に入りそうなほど種類が豊富だった。食べ物や飲み物もファミリーサイズが多かった。

そしてなにより、自分の意見をはっきりと伝えることと、英語は上手に話せなくても黙るのではなく、身振り手振りを使ってでもなんとか伝えようとする姿勢が大切だと思った。

○今後の目標

英語の勉強を頑張りたい。今回の経験を通して自分の英語力のなさを痛感した。日本の授業の英語は会話ではほとんど役に立たないことも分かったので、実際に役に立つ英語の勉強をしたいと思った。あとは、ホストファミリーと連絡をこまめに取り、交流を深めていきたい。



氏 名： 古室 早理

学校・学年： 私立渋谷教育学園幕張高等学校 1年

○志望動機

中学2年生の時、Dr.Phillips 高校生のホストとして、Rose と楽しい時間を過ごした。その時私は日本文化のプレゼンテーションをして、高校生達に大変盛り上げていただき、その聴く姿勢に感動した。さらに一行は私の通う中学校に給食体験に来て、それを案内した。どれもが偶然の出会いだったが、すっかり身近に感じる様になったオーランド。次は私が現地へ行きたいと、高校生になったら応募しようと考えていた。

○海外派遣で学んだこと

渡米は初めてでは無かったけれど、1人で日常生活の場に加わるのは初めてだったので、観光とはまた大きく違った体験になった。

アメリカでは、ホスト家庭をはじめ、お店、学校、市役所それぞれのスケールやシステムの違いはもちろん、考え方や姿勢も日本とは違い、当たり前だと思っていた感覚が通用しないことが沢山あった。例えば同じ教室内にも見た目から大きく違う多様な人種がいて、共存している。私が普段思っている「標準」や「普通」そして「常識」までも、現代の、日本の、私の周りだけの感覚に過ぎないのかも知れないと感じた。アメリカは大らかでフレンドリーで、何もかもが大きくて気分が上がり楽しかった。

一方、滞在中、何度も自分が日本人であることを意識した。例えばグロッサリーで他のかごやカートも気になり、無意識のうちに体が動いて整え直している。その度に私自身の個性なのか、日本人だからなのかと、ふと思った。そして、日本の良さも改めて気付いた。自分は、きっと日本の環境が心地よいのだと思う。

また、私の英語力では伝えられないことだらけだった。日本人どうしても考えや気持ちを伝えるのは難しい。異文化のもと、外国語で伝える事で私は今回、どれほど間違った事や印象を与えたか。きっと、失礼もしたことだろう。この事を忘れず、私がどちらの立場になったとしても、国や個人に関わらず、常に思いやりをもって、相手を良く知ろうとし、良く理解しようとする姿勢を持つとうと思った。

○今後の目標

まず英語力のアップ。そして、日本の文化や良さも伝えられるように、もっと知りたいと思う。市のプロモーション会議にまた参加する機会もあったら、姉妹都市を知っていただくように紹介出来たらと思う。将来は理系進学したいと考えているので、専攻する分野をしっかり学び、それを英語でも伝えられる様になりたいし、また国際的な感覚も持ち合わせていたいと思います。



氏 名： 箕部 晴心

学校・学年： 県立千葉東高等学校 1年

○志望動機

幼い頃、アメリカに住んでいた影響で海外に興味があったなか、友人にこの派遣について教えてもらい、興味をもったから。

○海外派遣で学んだこと

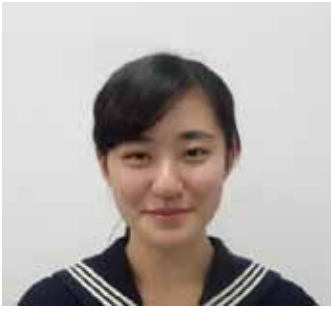
今回の海外派遣では、不思議と日本とアメリカの文化の違いなどはそれほど気にならなかった。国は違うし、言葉も違うが、共通していることも多くあった。アメリカの高校生たちも、外見は私たちよりもずっと大人びている人が多いが、関わってみると、当たり前だが彼らも自分と同世代の子どもなのだなと感じた。もしも、この派遣に参加できなかったら、こんな当たり前のことにもなかなか気づけなかったのだろうと思う。

また、改めて人と人との繋がり大切さを学ぶことができた。国は違ってもそれはどこでも同じなのだなと感じた。そして、今回の派遣で知り合うことができた人たちとの繋がりを大切にしようと思った。

○今後の目標

近い将来は今回この経験を学生のうちに生かしたいと考えている、海外留学に生かしたい。今回の派遣を通して、英語を学ぶことが最終目標のではなく、英語を手段としてなにかを学んだり、コミュニケーションをとることが最終目標なのであることを実感した。自分も早くその段階にいかなくてはならないなと感じた。また、今回お世話になったホストファミリーと一緒に派遣にいった仲間を大切に、長く付き合っていきたいと思う。そして、ずっと彼らにつりあう人であるために頑張ろうと思った。

もうすこし先の将来は、海外進出している日本企業で、日本国内におさまらず仕事をしたい。今回、触れ合ったアメリカの同世代のような人たちと、対等にビジネスができれば面白いのだろうなと思った。そして、浦安市とオーランド市の姉妹都市交流が、青少年の派遣がこれからもずっと続いていけるように、このプログラムに対してなんらかの支援ができる大人になりたいと思う。10日間、本当にいい経験をたくさんさせてもらった。



氏 名： 篠原 怜

学校・学年： 私立大妻高等学校2年

○志望動機

元々留学に興味があったが部活が忙しく行けなかった。
受験のために12月の全国大会で部活の引退を決心した直後にこの企画を知り、是非参加したいと思ったため。

○海外派遣で学んだこと

以前に二回オーランドに行ったことがあったが、テーマパークだけでない新たな魅力を知ることが出来た。

また、お互いの伝えたいことがよく伝わらないとき、スマートフォンの翻訳アプリを使って理解し合えたことは、私の中では大きな発見だった。

どうにかして伝えたいと思うことを、海外派遣前の私なら伝え方が分からず、伝えなかったかもしれないが、分からないことを恥じずにどんな手段を使ってでも伝えようという意思が大事なのだと感じた。

○今後の目標

初めてのホームステイだった私に、二番目の家族だと言ってくれたホストファミリーとの関係を続けたい。そして、アメリカの高校の授業を受けたという貴重な経験をこれからの高校生活だけでなく、大学や社会に出たときに活かしていきたい。

また、日本の教育課程では学ばない、localな英語の会話表現や発音を活かして海外に行った際や日本に来た外国人とたくさん会話出来るようにしたい。

11.平成 28 年度浦安市青少年海外派遣生の選考

選考委員会について

浦安市青少年海外派遣 第1回選考委員会

日時：平成 28 年 10 月 20 日（木）16：00～

場所：浦安市役所 3 階会議室

- 内容： 1. 平成 28 年度浦安市青少年海外派遣事業実施計画について
2. 派遣生の応募状況について
3. 選考会について

浦安市青少年海外派遣 選考会

日時：平成 28 年 11 月 6 日（日）9：00～

場所：浦安市役所 4 階会議室

- 内容： 1. 受付
2. 日程説明
3. 選考（日本語による面接、英語のスピーキング試験）

13：30～

場所：浦安市役所 4 階会議室

- 内容： 1. 作文の採点
2. 選考会実施結果報告
3. 講評
4. 選考審査

選考の結果について	
公募期間 平成 28 年 10 月 3 日（月）～10 月 14 日（金）	
応募者	26 名
選考会参加者	23 名
派遣決定者	10 名

12.平成 28 年度浦安市青少年海外派遣事業実績

事業スケジュール

平成28年11月27日（日）	事前説明会（保護者参加）及び 第1回事前研修会
平成28年12月18日（日）	第2回事前研修会
平成29年2月19日（日）	第3回事前研修会及びOB・OGとの交流会
平成29年3月11日（土） ～3月20日（月）	★青少年海外派遣★
平成29年4月5日（水）	事後研修会
平成29年5月14日（日）	報告会

海外派遣中のスケジュール

日程	主な内容
3月11日（土）	出発→16：00頃 オーランド国際空港着 空港にてホストファミリーと合流し、そのまま各家庭へ ※ホームステイ
3月12日（日）	終日ホストファミリーと交流 ※ホームステイ
3月13日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・終日 Dr.Phillips 高校授業参加 ・Dr.Phillips 高校で URAYASU ナイト ※ホームステイ
3月14日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・Dr.Phillips 高校授業参加 ・オーランド消防署見学、エオラ湖見学 ・オーランド市役所にて市長及び市議会議員表敬訪問 ・ゼブラ訪問 ※ホームステイ
3月15日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・Dr.Phillips 高校授業参加 ・ヒストリーセンター見学 ・ウインターパーク見学 ・ボーイズ&ガールズ クラブオブアメリカ訪問 ※ホームステイ
3月16日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・Dr.Phillips 高校授業参加 ・シーワールド・オーランド見学
3月17日（金）	・ディズニーワールド（アニマルキングダム）見学
3月18日（土）	・ケネディスペースセンター見学
3月19日（日）	7：20 オーランド空港発の飛行機に乗り日本へ
3月20日（月）	18：00 浦安市役所到着、解散



事前説明会（保護者参加）

日時：平成28年11月27日（日） 9：30～

場所：浦安市国際センター 研修室

- 内容：
1. 団長挨拶
 2. 自己紹介
 3. 姉妹都市の紹介
 4. 海外派遣の概要について
 5. 事務説明等
 6. 今後の日程
 7. 質疑応答



第1回事前研修会

日時：平成28年11月27日（日） 13：30～

場所：浦安市国際センター 研修室

- 内容：
1. 団長挨拶
 2. 自己紹介
 3. 青少年海外派遣事業の概要について
 4. アイスブレイク
 5. 浦安市についての学習
 6. オーランド市についての学習
 7. グループワーク
 8. その他連絡事項

第2回事前研修会

日時：平成28年12月18日（日） 9：30～

場所：浦安市国際センター 研修室

- 内容：
1. 派遣概要説明
 2. グループワーク（ネイティブスピーカーからの指導）
 3. その他連絡事項



第3回事前研修会

日時：平成 29 年 2 月 19 日（日） 9：30～

場所：浦安市国際センター 研修室

- 内容： 1. 日程等最終確認
2. 結団式
3. 出国にあたっての注意事項等説明
4. グループワーク（ネイティブスピーカーからの指導）
5. その他



OB・OGとの交流会

日時：平成 29 年 2 月 19 日（日） 13：00～

場所：浦安市国際センター 研修室



本研修 平成29年3月11日（土）～3月20日（月）
3月11日（土）
出発→16：00頃にオーランド空港着



空港にてホストファミリーと合流し、そのまま各家庭へ



3月12日(日)
終日ホストファミリーと交流





3月13日(月)
Dr.Phillips 高校授業参加(終日)



Dr.Phillips 高校でのURAYASUナイト
英語による日本文化紹介



日本文化体験



3月14日(火)

オーランド消防署見学



エオラ湖見学



オーランド市役所見学



オーランド市長及び市議会議員表敬訪問



ゼブラ訪問



3月15日(水)

ヒストリーセンター(歴史博物館)見学



サンレール乗車



ウィンターパーク見学



BOYS & GIRLS CLUB OF AMERICA



3月16日(木)
ホストとのお別れ



3月16日(木) シーワールド見学

3月17日(金) ディズニーワールド見学



3月18日(土) ケネディスペースセンター見学



3月19日(日)

7:20 オーランド空港発の飛行機に乗り日本へ



3月20日(月)

18:00 浦安市役所到着、解散



事後研修会

日時：平成29年4月5日(水) 10:00～

場所：浦安市国際センター研修室

- 内容： 1. 報告書確認
2. 報告会について
3. その他

報告会

日時：平成29年5月14日(日) 9:30～

場所：浦安市国際センター研修室

- 内容： 1. 報告会リハーサル 9:30～
2. 報告会 11:00～

13.派遣生報告書

ドクターフィリップス高校の授業参加

箕部 晴心

高校はとにかく広かった。規模も人数も日本な学校とは桁違いだった。授業参加させてもらった Dr.Philips 高校は、道路を挟んだ隣にユニバーサルスタジオがあり、多くのテーマパークがある観光都市のオーランドらしいなと感じた。学校からは、ハリーポッターの hogwarts 城が見えるほどだった。

アメリカの学校はなぜか始まるのがとても早い。暗いうちに家を出て、暗いうちに授業が始まる。朝が早くとても大変だが、その分部活も早くに始められて、明るいうちに帰れるというのはいいなと思った。また、フロリダでは 16 歳から車の免許をとることができるので、多くの生徒が自分で車を運転して登校していた。そのため、学校には広い駐車場があり、ここも日本の学校とは大きく違うと思った。

授業は、日本のように自分の所属しているクラスがあって、そのクラスで同じ授業を受けるというやり方を取っているクラスもあるようだが、私のホストシスターは、授業毎に自分が取っている授業のクラスに移動していた。敷地は広く、教室から教室への移動は長い、休み時間は 6 分しかないため移動中に授業開始のブザーが鳴ってしまうこともしばしばだった。休み時間はもう少し長くとしたほうがいいのではないかと思った。

私が、授業に参加した週は偶然、毎日違うテーマに合わせてコスプレをする週だった。私がアメリカに住んでいた時も小学校で同じようなイベントがあり、その時はみんな積極的にコスプレをしていたのに、高校生にもなると本当に一部の人しかしていなかった。この写真は、音楽の授業で一緒だった子がカートゥーンのコスプレの日にしていて格好だ。かわいかったので写真をとらせてと頼んだら、ポーズまでとってくれた。

授業自体は、まず英語が聞き取れず、先生がなにを言っているのか理解するのも大変だった。また、授業のほとんどをパソコンで行ってしまうこともあり、なにをやっているのかさっぱりわからないこともしばしばだったが、授業の雰囲気は感じることができ、本当にいい機会になった。



このように多くの驚きや発見があったが、私にとって2つの大きな驚きがあった。

1つ目は、生徒は1人1台パソコンを持っていて、授業のほとんどはそれを使って行われていることだ。私が参加した授業の中でパソコンを使っていなかった授業は数学のテストだけだった。私にとってそれは、見慣れない光景で新鮮だったが、私のホストシスターは、紙媒体による勉強のほうが、勉強した気になれるし理解も早いと考えていて、パソコンによる授業は好きではないと言っていた。確かに、パソコンによる授業は多くの教材を持ち運ぶ必要もなく、データの管理も楽かもしれないが、私は学生の間は紙媒体を使っていたいと思った。

2つ目は、多くのことが生徒の自主性に任されているということだ。私のホストシスターは真面目で、すべての授業に出席していて、宿題もきちんとこなしていたが、中には授業をさぼって外で遊んでいる人もいた。それで先生が特に怒るわけでもなかった。日本よりも自由にできることが多いが、その分学生自身が責任をもって動いているように感じた。

授業に参加した時間は短かったが、多くの人がフレンドリーに話しかけてくれ、とても嬉しかった。機会があればもう一度会いたいと思う。その時には、言葉で困ることなく彼らと話せるようになりたい。

ドクターフィリップス高校の授業参加

佐藤 亜美

Dr.フィリップス高校はホストファミリーの家からバスで1時間30分以上もかかるところにありました。



私のホストシスターは日本語のクラスをとっていたため、私もその授業の体験をしました。派遣生の子たちと話す時を除いて、オーランドに行ってからずっと英語しか耳にせず、標識も英語、何か伝えるにしても英語、ということにかく英語漬けの1日の中で日本語の授業は、心が休まる時間でした。どの生徒もひらがな、カタカナ、漢字を読んだり、書いたりしていて、そのレベルの高さにとても驚きました。日本人が英語を勉強する時、日本語の単語や文章を見て、それらを英語にするというのが主な勉強の仕方ですが、英語話者が日本語を勉強する方法は、そのちょうど反対のやり方でした。理屈では理解できる勉強方法ですが、日本語話者の私にはなぜか違和感を覚えるもので、面白かったです。Dr.フィリップス高校では全ての生徒に1人1台パソコンが支給されていて、そのパソコンで宿題をしたり、メモを取ったりしていましたが、日本語を打ち込む速さは、私よりも速いものでした。生まれも育ちも日本であるのに、たった1・2年しか日本語を勉強していない人たちよりもタイピングのスピードが遅い自分が情けなくなりました。約20人の生徒が日本語クラスをとっていて、私は彼らとすぐに馴染むことができました。彼らが私にわからない点を日本語で質問して、私は英語で答える、というインターナショナルな環境は、普段はなかなか得られない面白い経験でした。私は日本では、帰国子女がとても多い

高校に通学していますが、この体験は本当に貴重な体験だったと思います。

Dr.フィリップス高校での時間は、非常に有意義な時間となりました。遅刻しても平気な生徒、授業中にスナック菓子をぼりぼりと食べる生徒、先生の説明中であろうとなかろうと質問をガンガンぶつける生徒など、日本の常識では考えられない光景が広がっていた Dr.フィリップス高校ですが、自由な校風でのびのびと学ぶ生徒たちが羨ましくなりました。何人かの生徒とメールアドレスを交換したので、彼らとの交流を今後も続けていきたいと思っています。



URAYASU ナイト

小島 朋奈

3日目の URAYASU ナイトは、それまで一生懸命準備してきたプレゼンテーションを披露するということで、最初は少し緊張していました。URAYASU ナイト開始時間まで同じグループの仲間と最終確認をしました。準備をしていると、会場の食堂にひとり外国人の男子高校生がいて、その人が私たちの最後のプレゼンテーションの練習を手伝ってくれました。そして、練習後に話をしていると彼は日本に興味があり日本語を勉強しているというのです。食堂で、彼は宿題をしているのですが、その宿題も日本語の宿題でした。内容を見せてもらおうと結構難しいだろうなと思うような問題も含まれていて、すごいなと思いました。日本語を真剣に学んでくれる人がいることをうれしく思い、また、海外の人を引き付けることのできる日本の文化に誇りをもちました。後から聞いたのですが、彼は Dr. Phillips 高校の生徒会長なのだそうです。そんな彼を見ていて私もさらに英語の勉強に励みたいと思いました。

(↓真ん中が生徒会長です！)

(↓私のホストマザーと)



本番のプレゼンテーションは、来てくれた人たちのために今まで準備してきたことを全て出し切ることができるよう頑張りました。私の英語はぎこちなかったかもしれませんが、私たちの発表を最後までちゃんと聞いてもらえて嬉しかったです。

プレゼンテーションの後の自由時間では、今まで関わったことのない人とも関わることができ、良い機会だったと思います。みんな、私たちが紹介することに興味深そうに耳を傾けてくれたので、紹介のしがいがありました。机の上に、日本のお菓子の紹介としてきのこの山やタケノコの里、金平糖を置いておくと、美味しそう



に食べてくれたので、日本のお菓子がアメリカでも受け入れられたことに感激しました。ポッキーを抹茶味とプレーンを置いておいたら、なんと抹茶味のほうが人気がありました。私のホストシスターの Jasmine は、私たちが日本のお菓子を介绍する前からポッキーを知っていて、大好きだと言っていました。しかし、Jasmine は残念ながらフットボールの試合があったので来ることができませんでした。でも、ホストマザーは来てくれたので余ったポッキーときれいな折り紙をお土産に持って帰ってもらいました。

一番盛りあがったと思うのは、大縄跳びです。(下の写真)最初は、私たちしかやっていたのですが、だんだんと人が集まってきて、一緒に跳んで楽しみました。みんなで思いっきり体を動かすことができ会場は大いに盛り上がったと思います。

こんな風に日本のことを紹介したことがなかったので、とても楽しい URAYASU ナイトでした！このような機会が日本でもあったらまた参加したいと思います。



人前で、しかも英語でプレゼンをするのが初めてだった私には、とても思い出に残る行事だった。

事前研修ではいきなりグループになりテーマから決めだが、人見知りアイデアがすぐに出ない私にとっては正直苦痛だった。しかし私のグループはアイデアや改善点をお互いに躊躇せずに言い合い、最高のプレゼンを仕上げることが出来た。

また、出し物の日本舞踊はこれでいいのかかなり悩んだが、前日に集まったりして YOUTUBE で見つけた踊りを見よう見まねで覚えた。

当日、ドクターフィリップス高校の食堂を借り、ホストファミリーの方々などを招待して行われた。A 班は日本の高校生の一泊、C 班は日本の女子高生に人気なもの、そして B 班は日本のお菓子について。私は B 班だったが、そのなかでも最近の日本のお菓子について話した。私はもちろん日本だけでなく他国



のお菓子も好きだが、甘すぎずしょっぱすぎない日本のお菓子が好きだ。自分のその思いと、日本の技術の発達をうまく伝えられた気がする。他のグループの発表も本当にすごかった。お客さんのころころと変わる表情に、私もとても嬉しくなった。高校生が感じる日本の魅力と大人が感じる日本の魅力は少し違っていると私は考えるが、お客さんには高校生もいたのでうまく興味を引くことができたと思う。

全部のグループの発表が終わったあと、出し物をした。最初は何人かで大縄をした。大縄はアメリカには無いようで、みんなとても興奮していた。私も久しぶりの大縄に、ウキウキしてしまった。男子二人が縄を回してくれて、八の字に入ったり何人かで引っかからずに連続で跳べた回数を数えたりと、とても盛り上がった。

そして大縄が一段落つくと、それぞれのブースでお菓子を配ったりゲームをしたりした。私もみんなのブースを見て回りたかったが、日本舞踊の人集めをしたりして見ることができなかった。日本舞踊はなかなか人が集まらず大変だったが、曲を流したり扇子を渡して参加するよう頼んだりした。すると自然と人が集まってきて、何人か踊ってくれた。

なんとか URAYASU NIGHT も無事に終わり、家に帰るときに私のホストファミリーが発表を褒めてくれたり、日本に興味を持ってくれた。私は他のホストファミリーもそう思ってくれたと思う。こういった日本の魅力を伝える企画で少しずつ日本に興味を持ってくれる人が増えると良いなと思う。



消防署

古室 早理

外の光が射しこむガラス貼りの明るくオシャレな建物の中に入り、大会で得たトロフィーや盾が飾られている廊下を通って進むと、カラフルでかつ重厚さも感じるデザインの消防車が停まっていた。

消防署では足を負傷中で出動出来ない現役消防士の Mike が、私たちに施設の紹介と説明をしてくれた。

1885年に創られたこの消防署では、当時ベルを使って街中に火災を知らせたそうだ。そのベルが今も吊るされていて、Mike が軽く鳴らしただけでも、かなりの音がした。



現在は通報があると、署内にサイレンが鳴り、1分間で周辺の装備を整え、4分で出動するとのことだ。食事中や睡眠中であってもすぐ出動出来る様に、紺色のウエアを身につけていて、その上に防火服を着用する。その準備を実演



してくださったが、長靴の様なものに、厚い上下の防火服、ヘルメット、そしてさらに酸素ボンベを背負う。私は実際に外側に着る防火コートとヘルメットのみを着用させてもらったのだが、けっこう動きづらかった。これを全身装備でかつ酸素マスクをくわえて、重い道具を使って速やかな消火活動にあたるとなると、相当な体力が必要だと思った。立派な体格の人が多かったが、署員は過酷な現場での活動のために、上階にある「パフォーマンスセンター」と呼ばれるジムで日々トレーニングに励んでいるそうだ。

オーランド消防署は約130年の歴史の中で、業務上命を落とされた方(殉職者)は3名で、それは大変優秀なことだそう。9.11のテロの時もここから救助活動に派遣され、また昨年6月のナイトクラブでの乱射事件の際にも迅速な救助活動が評価されたそうで、感謝状が壁に飾られてあった。

現在は一日当たり25人体制でスタンバイしているそうだが、毎日の食事を署内のキッチンで交替で作り、一緒に食事をしているそうだ。私達もそのキッチンスペースで、ランチを用意してもらった。メニューはメキシカンで、タコスやチップスをいただいた。署員が調理もしている事に驚いたけれど、こうしたこともチームワークに繋がっているのかもしれない。皆、和気あいあいとしていて、声をかけあって仲が良さそうだった。

あとここでは、署員はファミリービジネスで、2世が多いということで、実際にMikeのお父さんも同じ署内で働いているとのことだ。



署員の皆さんは、この研修中を通して特にフレンドリーで、説明を受ける私達を笑顔で見守り、「オーランドを楽しんでる?」「もうディズニーは行った?」など次々に声をかけてくださり、私達も会話を楽しむことができました。

さらに、訪問後すぐに大量の写真データを派遣団に送ってくださった。彼らにとっては施設の案内は日常の事だ

ろうに、日本から来た私たちの事を思ったかのように、1枚ずつが丁寧に良い瞬間を捉えていて、思いやりに溢れた写真で、その親切さに感動しました。

消防署のFBにも私たちの訪問時の様子がアップされていて、それを市民の方がシェアやコメントをされていて、一般に開かれ、また親しまれている様子が伝わってきた。

危険な業務だけれど、市民のために、日々トレーニングをして備え、仕事に誇りを持っている隊員の皆さんはかっこよく輝いていました。本当にありがとうございました!



フロリダ半島は水に囲まれているため、地下水がフロリダには流れており、雨が降らないと地盤沈下してしまうそうだ。エオラ湖はかつて地盤沈下によって出来た湖であると知った。エオラ湖はオーランドのダウンタウンに位置し、エオラ湖の周囲は公園として整備されていた。緑に囲まれ、清潔な公園内では、ジョギングをする人、ベンチで休憩する人など様々な人がゆったりと思い思いに過ごしていた。エオラ湖からの景色はとても気持ち良かった。Linton E.Allen Memorial Fountain という噴水がエオラ湖の真ん中にあり、夜になると約 6 分間の季節ごとの噴水のショーを見られると聞いた。写真の虹色の建物は Walt Disney Concert Hall と呼ばれ、多様な文化イベントが開催されている。毎週日曜日にはファーマーズマーケットが開催されているそうだ。これは現地の人々が持ち寄った農作物や、はちみつ、洋服、絵画など様々なものが売られ、20 から 30 のテントが立ち並ぶという。もちろんスワンボートに乗ることもできる。他にも白鳥や鴨、リスなどたくさんの動物がいた。

また日本からの贈り物も公園にあったそうだ。1990 年 12 月に柳の木がエオラ湖公園に移植され、その後 2004 年にハリケーンが発生した際、ほとんどの木が倒れたがその柳の木は無事であっただけ。けれどその時にブランクは飛ばされてしまったため、翌年の青少年グループがブランクをプレゼントしたそうだ。しかし、昨年発生したハリケーンによって柳の木はついに倒れてしまったため、現在その場所に柳の木はなかった。またその場所に新たな柳の木が植えられてほしいと思った。



オーランド市役所はとても大きく、広く、綺麗な建物だった。市役所に入るとまず私達はセキュリティーチェックを受けなければならなかった。一般の方はもっと厳しいチェックだと言っていた。市議会が行われる部屋には市議会議員が座る席が前にあり、一般の人が座る椅子がそれと対面してあった。市議会議員が座る席の後ろには通路があり、裏では市議会議員 1 人 1 人のデスクがあってそこで仕事をしているという。私達は今回特別にその通路を通らせても

らえた。市議会議員の方々はとても気さくで挨拶をしてくれた。

市長を待つ間様々なことを教えていただいた。まず、オーランドには 6 つの地区があり、6 人の市議会議員がそれぞれ担当しているという。そしてオーランド市長が議長となって会議を行うらしい。現在の市長の名は Buddy dyer(バディ ダイヤー)市長であり、ダイヤー市長は昨年再選し 4 期目を迎えているという(任期は 4 年)。議会は基本的に午後 2 時から 4 時間行われ、議題としては公共施設、道路、公園であったりと、町の開発についてがほとんどだという。

先ほど一般の席と述べたが、アメリカでは建国以来、議会の内容を公にしなければならないと法律で定められているため、一般の人が議会に参加することが認められているという。さらに議会の最後の 5 分間のみ一般の方が話すことが決められているらしい。この一般国民が議会に参加できるというのはとても素晴らしいことだと感じた。

市長が来てくださり、私が市長へのスピーチをする時に、原稿を覚えたはずだったが、緊張で結局原稿を丸読みしてしまい、後々とても悔しかった。

市長からはオーランドのバッジとお湯を入れるとオーランドの街並みが浮かびあがるオシャレなコップをいただいた。



今回の海外派遣の中で、私たちは4日目に ZEBRA COALITION という施設を訪問した。Zebra Coalition は、アメリカで活動する組織で、LGBT および 13~24 歳のすべての人々にサービスを提供している。LGBT とは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの略で、性的少数者を指す。Zebra Coalition はこうした性的嗜好をもつ若者を対象とした組織で、子供にとっての「安全な場所」を作ることを目的としている。

Zebra Coalition の施設には、カウンセリングルームや図書室、バスルーム、さらにはゲームができる場所まで用意されている。これは、この場所に来た子供が安心して時間を過ごせるための工夫である。子供は、月曜日から金曜日ま



でいつの時間でもこの場所に入ることができる、「ドロップインセンター」となっており、そこはまさに子供にとっての「安全な場所」となっている。ここには両親と一緒に来る子供たちや、安全を求めて、自転車を使って来る子供もいる。

Zebra Coalition の活動は、個人相手にとどまらず、企業

相手にも積極的に行っている。これは、個人よりも、企業のような集団への教育を行ったほうが、大きな効果が見込めるからである。

また、Zebra Coalition は、ホームレスの子供への支援も行っている。これは、ホームレスの子供の約 40% が LGBT だからである。こうしたホームレスの人々を救うには、カウンセリングや遊び時間の提供などだけでは不十分である。そのため、Zebra Coalition は、施設の中に 7 つのベッドを所有し、ホームレスの人々が生活できるようにしている。また、住宅のカウンセリングなども行っている。

では、Zebra Coalition のこのような活動の資金はどこから来ているのか。資金調達のルートは多岐にわたり、個人の寄付、企業の寄付、政府の補助金などが主である。また、Zebra Coalition は「LGBT の人やホームレスの子供たちを助けてあげたいが、自分では何をしたら良いのかわからない」という人々のためにあるともいえる。

Zebra Coalition は創立してからまだ 6 年目で、活動は浸透しきれていないという。

最後に、なぜ Zebra (シマウマ) なのか。これには、色々



な意味が込められている。まず1つは、人生は「黒白つけることができるようなものではない」ということ。人生は、「真っ黒」でも「真っ白」でもなく、色々な出来事がまじりあってできている。2つめは、人生はシマウマの模様のように、一様ではないという意味である。シマウマの模様が個体によって異なるように、人の人生も皆違うということだ。

今回の訪問は、私にとっては少し難しい内容だったが、とても勉強になった。これからは、社会の役に立つ活動に積極的に取り組んでいきたい。

ヒストリーセンター・ウィンターパーク 開沼 優希

ヒストリーセンターは、フロリダ州などが含まれるオレンジカウンティの歴史等を展示している施設である。今回、見学したのは3つのフロアで、それぞれ違う分野についての展示だった。

1、 自然

最初に見学したのは、フロリダ州の自然についての展示で、フロリダに生息している動物などについてだった。オーランドがある地域は生態系が豊かであり、特に蚊がとても多いとのことだった。(マナティーも生息している。) また、この地域は湖が多く、地盤沈下によってできた湖もあるそうで、エオラ湖もその一つである。

2、 歴史

昔のフロリダ州地域に住んでいた人々は貝を食べていて生活したそうで、日本にもある貝塚のようなものが残っている。その後、ヨーロッパからスペイン人が入植してきて、牛や伝染病、特産であるオレンジがフロリダ地域に流入してきた。(入ってきた伝染病によって以前から住んでいたTimucan インディアンが亡くなってしまう。) スペイン人が来る前から住んでいたTimucan インディアンについてだが、羽根や矢を頭に差し、体には木の実の汁を使ったタトゥーをいれ、動物の皮等を使って体を覆っていた。現在はTimucan インディアンではなく、Seminole インディアンが生活している。(Seminole という名前は、フロリダ州立大学のチームのニックネームとして今でも使われている。)

その後、この地域にヨーロッパから移り住んだ人々は木製のログハウスとベッドを自ら作り、生活を始めた。家には窓がはめ込まれておらず、蚊が入り放題の状況だったため、蚊帳をベッドの上からかけていた。また、食事にはリスとポッサムを使ったスープを飲んでいて、また、生業として牛を飼育していた。牛を管理するために鉄の焼き印を使っていた。

3、 オレンジ

フロリダの特産は言わずもがなオレンジである。(この派遣中何回か食べたが、とても美味しかった) オレンジ生産においては、収穫がすべて手で行われるため、人にかかる負担をどれだけ減らすかということでAllen Bag という筒の形をした袋が開発された。(Allen Bag は袋の下が開いており、収穫するときは袋の下部部分をひもで上部分にひっかけ、かごに出すときはそのひっかけるひもを外して出すというもの。こうすることで

人が袋に手を入れてオレンジを出す手間が省ける。) また、オレンジをジュースにして缶詰にし、各地へ出荷するという方法で多額の収益を得た Dr. Phillips はその名前を冠した建物や施設が各所にある。(Dr. Phillips 高校もその一つ…?)

4、 裁判所

ヒストリーセンターの中には、1928年に建てられた裁判所があり、1988年に新しいものができるまで使用されていた。現在は博物館として使われているが結婚式でも使われている。(傍聴席だけでなく裁判長や速記官の席にも座ることができる。)

ウィンターパークはきれいな街並みが続く、住宅街と商店街が合体したようなところで、どこを撮ってもきれいな写真が撮れた。ここの中にあるバーガーファイというハンバーガー屋のハンバーガーはとても美味しいのでお勧めである。GAP や LUCKY BRAND などの服屋もたくさんあり、買い物にも向いている。ここで書いているだけだと伝わらないと思うので、写真をいくつか載せようと思う。



前後して申し訳ないが、ヒストリーセンターの写真↓



Boys&Girls Club Of America というのは、いわゆる学童クラブだ。ただ規模が日本と全く異なり、小学生から高校生まで、夏休みなどの長期休暇には900人ほど集まるという。体育館もとても大きくて綺麗だった。その体育館で私たち派遣生はプレゼンをした。

その日は100人以上ものBoys&Girlsが集まってくれた。ウラヤスナイトと違い、聞いてくれる人が若い子だけで少し緊張したが、楽しんで聞いてくれたので嬉しかった。その後は少し時間があつたのでBoys&Girlsとお喋りをした。私は10歳くらいの子たちと喋っていたが、みんな「私の名前は日本語でなんて言うの?」と質問してきた(笑)すごく可愛かった♡喋れる時間があまりなくて、高校生たちとも話したかったができなかった。高校生たちは私と同じくらいの年齢とは思えないほど大人っぽくてかっこよかった!

プレゼンをやることが急遽決まって、約1時間のBoys&Girls Club Of Americaでの滞在時間のほとんどがプレゼンになってしまい、Boys&Girlsと触れ合う時間が少なかったのが残念だった。みんなとても明るく、優しく、その上フレンドリーで、私たちが帰る時も盛大に手を振ってくれてすごく嬉しかった。

Boys&Girlsと喋っている時、聞き取れなかつたり言いたいことを上手く英語で表現できないことがあつたので、自分の英語を磨いてまた彼らと会いたい!!



ケネディスペースセンター

山中 恵里那

派遣9日目の18日にケネディスペースセンターに行きました。そこは“宇宙に一番近い場所”として知られる宇宙ロケット発射基地です。驚いたのがその広さです。総面積は385平方キロメートルにも及び、ディズニーランドが1000個分、アニマルキングダムが4つも入ってしまう大きさです。なぜこんなにも広いのかというとロケットの発射が失敗したときに、莫大な被害を最小限に抑えるためだそうです。

また、ケネディスペースセンターはフロリダ州ブレバード郡メリット島にあります。なぜこの場所に造られたかということ、赤道に近いからだそうです。赤道に近いと地球の自転を利用して、ロケット燃料をなるべく使わずに軌道速度を得ることができるそうです。ちなみにNASAとは、日本語にすると国際航空宇宙局です。



私たちは2時間のバスツアーに参加し、実際に敷地内を見学しました。バスの中からはシャトル発射台やシャトル組み立て工場などを見ることができました。シャトル組み立て工場は高さ160メートルもあり、それは写真では伝えられない位大きくて思わずため息が出る程でした。また、バスの移動中には野生のワニを見ることができました。生でみるワニは初めてだったのでとても新鮮でした。

今回は見ることはできませんでしたが、黒い鳥などもみられるそうです。

バスから降りるとアポロ・サターンVセンターに行きました。ここでは宇宙開発や月面着陸時の映画を鑑賞しました。またこのセンターでは本物の月の石や70kgもあるという宇宙服、サターンVロケットなども間近で見ることができました。

次に、スペースシャトル着陸時の角度である22°を体験できる滑り台で、実際に滑ってみました。滑ってみると、見た目よりも結構急だと感じました。



そしてもうひとつ、シャトル発射体験ライドというアトラクションみたいなものを体験しました。その名の通りスペースシャトルの打ち上げを体験することができます。振動したと思ったら椅子が90°に傾き、機体が地上から離れるころには細かくて速い振動が続きました。しばらくすると目の前に星が散らばり、幻想的なシーンを見ることができました。ただでさえ綺麗だったのに宇宙飛行士の方はこれよりももっと素晴らしい景色を見ているのかと思うと、すごく羨ましくなりました。貴重すぎる体験ができて嬉しく思います。ケネディスペースセンターは人類初の月面着陸を成し遂げたアポロ11号があり、初のスペースシャトルが打ち上げられた場所であるだけでなく、2030年に火星の打ち上げを予定しているらしく、とても夢が詰まった場所だなと思いました。宇宙のことをたくさん知れたし、興味も湧いたのでよかったです！

ホストファミリーとの思い出

開沼 優希

この派遣では、Babiasz さん一家が私のホストファミリーとして受け入れをしてくれた。ホストシスターの MacKenzie とは、出発する前からメールで何回かやり取りしていたが、空港についてホストファミリーと対面するまで不安しかなかった。しかし、空港でホストファミリーと対面し、話しているうちに徐々に不安はなくなっていったように感じる。

到着した日は、Olive Garden というイタリアンレストランで夕食を食べ、Super Target というホームセンターとスーパーが合体したような超巨大な店で買い物をした。一日目から、日本との違いをダイレクトに感じた。

二日目は、終日ホストファミリーと過ごす日だったので、Universal に連れて行ってもらった。(事前に、Universal か Busch Gardens のどちらがいいかと聞かれ、Universal と答えていた。) ホストファミリーは、Universal の年間パスを持っているので、色々なアトラクションを案内してくれた。Universal には、Universal Studios Florida と、Islands of Adventure という二つのテーマパークがあり、どちらにも連れて行ってもらった。Universal にはたくさんアトラクションがあったが、特に、Harry Potter のエリアはリアルで、ハリーポッターが好きな私は終始エキサイトしていた。



ホストファミリーと

三日目は、高校で一日過ごす日だった。ホストシスターのっている授業は、数学、体育、生物、フランス語、吹奏楽、英語のボキャブラリー、地理だった。Dr. Phillips 高校では、生徒全員にノートパソコンが配布されていて、それを使用して授業を行っているのが新鮮だった。吹奏楽を授業として行っているのは、部活でオーケストラに参加している私にとって、不思議な光景だった。

四日目は、市役所に行く日で、前日に、ホストファザーに市長の前で Funny Face をしてきてね、と言われたが、市長との面会時間がとても短く、その目標を達成することができず残念だった。帰ってきた後、どこに行きたい?と聞かれ、スーパーと Trader Joe's に行きたいと伝えたら、その二つだけでなく、

Disney Springs というディズニーワールドの敷地内にあるショッピングモールにも連れて行ってくれた。Disney Springs では、LEGO STORE にある巨大なフィギュアの前で一緒に写真を撮ることができて、思い出になった。

五日目は、帰ってきたらホストファミリーの向かいの家に住むご夫婦に会うことになった。実は、三日目くらいに、ご夫婦の奥さん手作りのタオル掛けをいただいていた、そのお礼を言うことができた。とても優しいご夫婦で、息子さんの話などもしてくださった。

この日は、ホストファミリーと過ごす最後の日だったので、夕ご飯はシェフをしているホストファザーがタコサラダを作ってくれた。また、荷造りをしていると、思いがけずたくさんのプレゼントをもらい、その中に Beans という、玉をつなげたネックレスのようなものもあった。Beans は二日目に Universal に行った時にパレードで山車から投げられるのをキャッチしたもので、(たぶん)50 本以上もらってきていた。たくさんあるから、日本に持って帰って友達にこれを紹介してね、と渡してもらった。

一週間もない短いホームステイで、たくさんの方に連れて行ってもらい、家族のように受け入れてもらえたことが、とてもうれしかった。今でも、連絡を取ることができていて、これからも続けていきたいと思っている。

ホストファミリーとの思い出

八巻 遼

オーランド空港に着いたとき、私はとても緊張していた。しかし空港のロビーでホストブラザーを見つけ、そばに行った瞬間その緊張は和らいだ。ホストファミリーは私にとっても優しく接してくれ、私がわかりやすいように簡単な英語で話してくれた。

空港の駐車場に出て、まず日本との違いを感じた。アメリカの自動車はとても大きく、Vinny のお母さんも大きな車を持っていた。車の中から見た景色は日本とは全く違った。道路は広く、周りも開けていた。また、湖があちらこちらに確認できた。

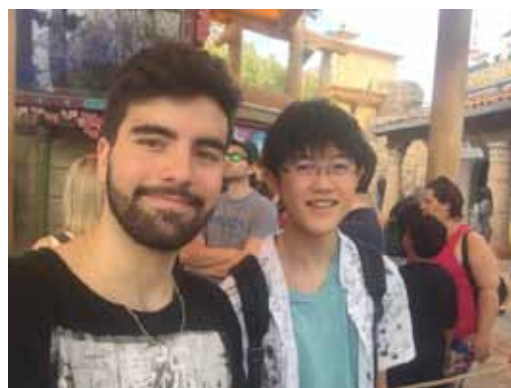


Vinny の家には、空港から車で 20 分ほどで着いた。Vinny の家は、Dr. Phillips 高校からたった 5 分程度のところにあった。家を案内してもらって、あまりの広さに大変驚いた。家の中にバスルームが 4 つもあり、ムービーシアター、ビリヤード台もあった。ホストファミリーが自分に用意してくれた部屋は、浦安の家の自分の部屋の二倍くらいあった。また、家の外に噴水もあり、日本とアメリカの土地の大きさの違いを感じた。Vinny の

家族は、全員が車を運転することができる。一人一台車を持っているため、家には合計 4 台の車と 2 台のバイクがある。

その日の夜、Vinny とたくさん話をして、ホームステイ中の予定を決めた。

2 日目は、ユニバーサルオーランドに行った。ユニバーサルは Vinny の家からとても近く、車で 10 分くらいで連れて行ってくれた。その日は 1 日をユニバーサルで過ごした。ユニバーサルを知り尽くしている Vinny にいろいろなアトラクションを案内してもらい、とても楽しい一日を過ごすことができた。その日の夜は、Vinny とお母さんの Adriana、お父さんの Civan、お兄さんの Christian、Vinny の恋人の Paula から日本についてとても多くの質問を受けた。日本の宗教について聞かれたりして、答えるのがとても難しかったが、5 人もこちらのいうことを頑張って理解しようとしてくれたおかげでとても楽しく話すことができたし、日本について改めて知ることができた。



3 日目は終日 Dr. Phillips 高校の授業に参加した。一番驚いたのは、授業にノートは一切使わないことだった。先生はスクリーンに PC の画面を映し出して解説し、生徒はそれを自分の PC に打ち込む、というスタイルで学習をしていた。違いはこれだけではなく、毎日同じ日課で授業を受けたり、授業間の教室の移動距離が長かったりしてとても興味深かった。また、Vinny とその友人と

のジョーク交じりの会話が面白いと感じたときは、自分の英語力の向上を感じることができてとてもうれしかった。

4日目は、授業体験のあと映画を観に行った。英語の会話スピードが速すぎて、会話の内容はほとんど理解できなかったが、ストーリー自体はなんとか理解できた。もっと英語を勉強して、会話もある程度理解できるようにしたい。映画を見に行ったあとは、ホストマザーの Adriana の誕生日パーティーに行った。ホストマザーの友人も多数集まり、皆と仲良く話すことができた。ホストマザーの友人の中には、日本に過去に行ったことがある人もいて、日本の地名をいくつか知っていたのでなんだかうれしい気持ちになった。

5日目はゴーカートに行った。Vinny はその店で以前働いていたため、フリーチケットを持っていた。それを見て、顔の広さは重要だということを実感した。そのゴーカートはかなり本格的で、体感で 50km 程度は出ていて、とても楽しかった。

最終日の夜は、ホストファミリーがピザ屋に連れて行ってってくれた。ピザと言ってもただのピザではなく、直径が 30 インチもある巨大なものだった。アメリカではすべてが大きく、このピザもアメリカならではのものだと感じた。最後の別れの時、ホストファザーの Civan が「2020 に東京に行くよ」と言ってきて、とてもうれしかった。2020 年の東京オリンピックの時私は 19 歳。その時には、何か外国人とかかわれることがしたいと思う。



ホストファミリーとの思い出

大日向 さや

オーランド空港に着いた時、突然緊張しだして不安になっていたけど、ホストファミリーが” Welcome SAYA ” と書かれたボードとすごく綺麗な花束と青いバルーンを持って家族全員で出迎えてくれて本当に表現できないほど嬉しかった。マキさんや団長がホストファミリーと会った瞬間長いフライトの疲れを忘れると言っていたが本当にそうだった。私のホストシスターは Anna という名前で本当に優しく可愛い同い年の女の子だ。パワフルな Ava と step sister の Megan, Erin の 3 人の妹がいる。お母さんは Nancy でお父さんは Mike

だ。空港から家に向かう車の中でお互い Ed Sheeran が好きだということがわかり、Anna が Ed のアルバムを流してくれた♪家に入ったら犬の cooper と猫の midnight も出迎えてくれた。本当に可愛くて一目みてメロメロになった♡その後、プレゼントが詰まっているかごをくれてその中の紙に welcome to our home と書かれていて、オーランドに来て良かった！！と思った。その日の夜に Anna のボーイフレンドの Brian が遊びに来た。Anna と同じく Brian もとても優しく、また、面白い人だった。



次の日は日曜だったので cocoa beach と Disney Hollywood Studio に連れて行ってくれた。Disney では Anna の友達 Nasma と Nicky も加わった。アトラクションに並んでる時に Ava がアトラクションの楽しさを 1 個 1 個一生懸命説明してくれて、それがなんだかとても嬉しかった♡次の日の 1 日授業参加ではすごく新鮮な体験ができた。農業の授業の時に Anna と友達 Izzy が学校で飼っている動物を見せてくれた。ヤギ、牛、鶏などがいた。私が感動したら Izzy がいきなり「鶏抱っこする？」と聞いて、私は人生で初めて鶏を抱っこした。なんとも言えない感じだったが鶏を可愛いと思えた。次の日は学校が終わった後、念願の Universal に…♡私は Harry Potter が大好きで、ダイアゴン横丁に入った時は感動しすぎて口がずっと開いていたと思う(笑) Anna も Harry Potter が大好きで並んでいる時に色々教えてくれた。Brian も一緒に、彼はギャグ線の本領を発揮していていつも以上に面白かった(笑) 2 人とも次の日テストがあるにも関わらず、閉園時間まで一緒に遊んでくれて本当に良い人だなと改めて感じた。お別れする前日の夜は家にたくさんの親戚が集まってパーティーをした。2 歳の子供から Anna のおじいちゃんとおばあちゃんまで集まった。その日の夜ご飯は本当に豪華で、特に mom の作ったチキンがすごく美味しかった！Anna のおばあちゃんと話している時、「あなたの英語は素晴らしい！」と言われて、今までそんなこと思ったこともなかったから本当に嬉しくて一瞬泣きそうになった。

Anna の親戚たちも本当に良い人ばかりでお別れする前に出



会えて良かった。その日の夜、荷造りをしながら本当にここへ来て、こんなにも温かい

人たちと出会えて良かったなと思った。お別れの時はお互い笑顔で、そしてハグをした。お別れは寂しいけど、でもなんとなくまた絶対会える気がする、会いに行く！と思っていたと思う。次会う時は英語を磨いてもっと Anna たちと喋れるようになりたい。あっという間のホストファミリーと過ごした日々はこの先もずっと忘れることのない一生の思い出になった。このファミリーと出会えて本当に良かった。出会えた運命に感謝！大好きです！！



ホストファミリーとの思い出

新田 陸人

長い飛行を終えてオーランド空港に到着するとすぐ、多くのホストファミリーが目の前におり、私達を温かく迎えてくれた。まず、これからお世話になるホストファミリーの元へ各自挨拶をしたのだが、私のホストブラザーのガブリエルは髭がとても濃いのですぐにわかった。挨拶をするととても優しい家族で安心した。



空港から家へ車で向かう道のりで多くのことを聞かれたが、初めはホストマザーやブラザーの英語のスピードについていけず、何度も聞き返してしまい申し訳ない気持ちになった。

しかし、長男のガブリエルも9歳の三男のアンドレスもサッカーが好きで、お気に入りのサッカーチームや選手の話をして盛り上がることができ、嬉しかった。

家が近づいてくると、まず住宅街に驚かされた。家の建ち並び方が映画やドラマのワンシーンで出てくる並び方そのものだったからだ。その道を少し進むと、ホストファミリーの家があった。大きな平家にガレージがついており、その大きさにまたもや驚き、これから自分が生活する家だと考えると興奮が抑えきれなかった。正面玄関から入ると目の前にフォーマルルームと呼ばれる客人用の大きな部屋があり、とても豪華だった。

さらにバスケットゴール、卓球台、プール、3つのバスルームがあった。私はそれから5日間、1つの部屋と1つのバスルームを自由にに使わせていただくことが出来た。

その日の夜は家族揃ってレストランへ行き、私達はステーキを食べた。その

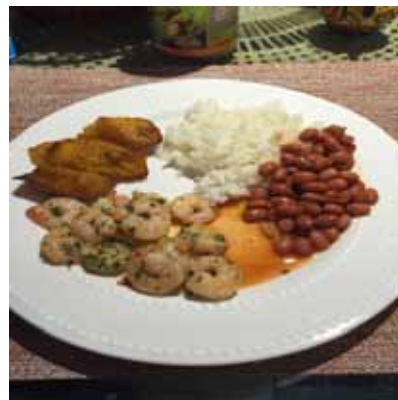


時私はお水と共に食べていたが、飲み物が飲み終わるとすぐ同じものを持ってきてもらった。聞いてみると、アメリカのレストラン等では、初めに飲み物を頼むと、飲み放題になるのが当たり前だと言っていた。そのため、ホストブラザー達はコーラ等を何杯も飲んでおり、私のイメージするアメリカ人がそこにあり、とても面白かった。

他にも、私がホストファミリーにプレゼントしたお菓子の中にせんべいの詰め合わせがあり、食べてもらったのだが、わさび味はみんなまったく美味しくないとっていた。しかし、金平糖、抹茶のお菓子は美味しいと言っていた。味覚の違いに面白さを感じたが、それと同時に同じ green tea の抹茶と緑茶の違いを説明するのが大変だった。

2日目の朝はホストファミリーの姉と旦那さんが家に来て、みんなでとても豪華な朝食をいただいた。どれもとても美味しく、素敵な時間を過ごすことができた。

3日目からは学校等があったため、長い時間は共有出来なかったが、ガブリエルと高校のバレーボール部へ参加したり、次男のダニエルのサッカーの試合を見に行き、その時にアンドレスとサッカーをしたり、ガブリエルの練習試合を見に行ったり、おすすめのゲームを紹介しあったり、どれもとても楽しい時間だった。他にも、毎日のご飯がとても美味しかった。朝はスクランブルエッグ、



グ、シリアル、ワッフル、ベーコン等から食べたいものを食べさせてくれた。夜はラザニア、ホストマザーの故郷の一般的な夕食等を作ってくれた。

5日目の夜に、ホストブラザーに英語しか使えなくて疲れない？と聞かれ、その時に、確かに初めは大変だったが、今は英語で会話することに慣れていることに気づき、自分の成長を感じて嬉しかった。そしてホストファミリーとお別れの朝、家を出る時に手紙をもらった。後々読んでみると家族1人1人からの寄せ書きが書いてあり、寂しさと嬉しさで涙が出そうになった。今回私を新たな家族のように接してくれたホストファミリーには本当に感謝したい。これからも連絡を取り続けたいと思う。

ホストファミリーとの思い出

佐藤 亜美

私のホストファミリーは、私を本当の家族のように受け入れてくれました。ホストマザーの仕事が忙しいので、朝食、夕食は用意されない家庭でした。私は、日本では基本的に毎日3食、決まった時間に栄養バランスの良い食事をとっていましたが、私もホストファミリーに合わせた生活をしていました。ホストマザーには、お腹が空いたらおやつをいくらでも食べてね、と言われましたが、おやつもあまりなく、お腹が空きすぎて、水で空腹を紛らわせることもありました。こんな私のことをかわいそうに思った他の派遣生のホストの方から、軽食を恵んでもらうこともありました。



私の1番嬉しかったことは、そんな忙しいホストマザーが最後の夜に、最初で最後の夕食を作ってくれたことです。それまで一度もホストマザーの手料理を食べていなかったのに、忙しい合間を縫って料理をしてくれた、ということにとっても感動しました。ホストマザーの出身がハイチということもあり、ハイチの伝統料理の白い豆のスープをかけた鶏肉と青バナナフライをいただきました。玉ねぎやパプリカなどの食材を切るのは私の担当で、ハイチ料理について学ぶことができました。唯一提供された、最後の晩餐は、日本ではなかなか経験できない料理で、面白かったです。



ホストファミリーの生活環境と自分の普段の生活環境の違いに戸惑うことも多々ありましたが、こういう経験も人生に一度は必要かもしれないと思いました。普段、日本で母が作ってくれる美味しくて、お腹の満たされるたっぷりの食事の有難さに気づくことが出来ました。

ホストファミリーにはエオラ湖に連れてってもらいました。エオラ湖には後日、公式事業として派遣生全員で行く予定があったので、8泊10日の間に計2回行きました。ホストマザー曰く、エオラ湖はオランダの人が大好きな

湖だそうです。短期間に2回も行った私もエオラ湖に親近感が湧きました。元々、私自身はディズニーやユニバーサルスタジオといったテーマパークに行きたいと伝えていたのですが、ホストファミリーは人工の物が嫌いで、自然志向が強いようでした。ホストシスターの宿題が終わらず、ホストマザーも仕事で毎日疲れきっていたため、学校から帰った後も特に出かけず、家にいることが多かったため、エオラ湖に行ったことは、私にとって思い出となりました。



お別れのときにホストファミリーに「ぜひ日本に来てください」と言うと、「お金がないから無理だ」と言われてしまいました。万が一ホストファミリーが日本に来ることがあれば、私は日本の色々な場所を案内したいと思います。

ホストファミリーとの思い出

小島 朋奈

March 11 この日に、初めて私のホストファミリーと出会いました。ホストシスターの Jasmine と彼女のお母さんが “Welcome Tomona!” と書かれたカードと、スマイリーの風船を持って歓迎してくれて、これからのホームステイがさらに楽しみになりました。家に着くと、Jasmine の家には彼女のたくさんの友達が遊びに来ていて、大騒ぎで歓迎してくれました。この日は、夜通しパーティーで、みんなで事前に私が好きだと伝えていた High School Musical を観ながらピザやデザートを食べ、カラオケもしました。少し恥ずかしかっただけれど、私もノリノリで歌ってきました笑。夜中の1時くらいからベッドの上でガールズトークが始まり、私もまぜてもらいました。みんな私の話もよく聞いてくれて、まるで元から知っていた友達かのような感覚になり、本当に楽しい夜でした。



March 12 2日目は、ホストファミリーとの自由時間でした。1日目に夜中までパーティーをしていた私たちは、お昼くらいまで寝ていました。私は大好きなショッピングに行きたいと頼んでいたため、大きなモールに連れて行ってもらいました。1日目にパーティーをした Adrianna という友達も一緒でした。

アメリカの大きなモールに行くことができた私は大はしゃぎでした笑。2日目にして、莫大な買い物をしました笑。買ったものの中でもいちばん気に入っているのが、彼女たちが私のために選んでくれた洋服とアクセサリです。夏用の服なのですが、きっとこれからの夏、その服を着るたびに私はこの日のことを思い出すことになるでしょう。そしてショッピングの合間にミニーマウスのぬいぐるみをプレゼントしてくれました。そのミニーマウスの手を押すと、” We love you , Tomona.” と声が入っているのです。このミニーマウスは私の枕元に置こうと決めました笑。

March 13 3日目は初めての現地校の授業体験です。緊張していましたが、アメリカの授業の良くも悪くも自由すぎる風景をみて、緊張はすぐに解けました笑。学校でもみんなが声をかけてくれて、どんどん友達は増えていきました。授業の内容を理解するのは難しかったのですが、2時間目の音楽の授業は私も一緒に合唱で参加しました。ランチタイムも賑やかで、学校の行きに買ったサンドイッチとお菓子をホストシスターと半分に分けて食べながら、みんなでたくさん笑いました。この時、ここにいる人たちはなんてフレンドリーなのだろうと感じました。3日目の夜、Jasmine が友達の Nathalie と一緒に “Bento Cafe” に連れて行ってくれました。そこでは白米を箸を使って食べる私の姿に

感激したらしく、彼女たちも懸命に箸を使って食べていました笑。Jasmineの周りにはいつでも友達がいる、賑やかだなと思いました。

(←これは授業中に撮りました！笑)



March 14 4日目は、Jasmineが友達のAmberとNadaと一緒にDisney Springsというモールに連れて行ってくれました。そこは普通のモールと違って、Disneyのような雰囲気がありました。夕方から行き、みんなで(ホストマザーも一緒に)スタバを飲んだり、ショッピングをして楽しみました♡野外ライブを聴きながら一緒にリズムにのったり、寒かったので集まって暖をとったり、写真を撮ったり、全ての時間が楽しかったです。帰るのが夜中の1時過ぎになってしまいましたが、それも特別な感じがしてわくわくしていました笑。

March 15 ラストの夜は、Jasmineがフットボールの試合に行っていたので、私はホストマザーに連れられて男子バレーボールの観戦に行きました。会場に行くと、Jasmineの友達たちや学校の人たちがいっぱいいて話しかけてくれました。もちろん試合を見て一緒になって応援したことが大きな思い出になりました。そしてこの日の夜は、Jasmineとホストマザーとリビングで雑魚寝をしました。この時、私は本当にこの家族の一員になれたような気がしました。



March 16 お別れの日です。2時間目の授業は音楽でしたが、いつもの先生と違い出席だけとるとすぐにどこかに行ってしまったので、私たちは音楽ルームの中にある小さな部屋に電気を消したまま閉じこもって、他の友達も一緒に最後の時間を過ごしました。5日前に会ったばかりなのにもうお別れなんて信じられませんでした。別れたくなくてもお別れの時間はやってきて、Jasmineと友達のAdriannaがバスまでお見送りに来てくれました。私は泣くなんて思っていなかったのに、Adriannaが先に泣き出してしまったせいでJasmineも私も泣いてしまいました。涙なみだのお別れで、私は良い人たちに出会ったなと強く感じました。本当に楽しい5日間でした!! 早く再会するときが来ると良いです。



ホストファミリーとの思い出

山中 恵里那

空港に着くときれいな花束と「WELCOME ERINA ようこそ」と書かれた紙を掲げてホストマザーの Camilla と Michaela が豪華に迎えてくれました。会うまではちゃんとコミュニケーションとれるかなとか、楽しく過ごせるかなとか思ってすごく不安で緊張していました。だけど二人がとびきりの笑顔で迎えてくれたので嬉しくてほっとしたのを今でも覚えています。



まず家に着くと部屋の案内をしてくれました。家には犬の Boggle と子豚の Wilbur、プールだけでなくランニングマシンや滑り台、キャンプファイヤー用の木の囲い、卓球台などがあって驚きました。そしてその後、Michaela と SNS でやり取りした際にバスケのチケット取

れたから見に行かない？と言われていたので、さっそく家族みんなで会場に向かいました。私自身プロの試合を見るのは初めてだったのですごくわくわくしていました。試合はすごく盛り上がっていてプロの動きに圧倒されました。ゴールが決まると Michaela と一緒に大声出して叫んでお互い向き合ってハイタッチしました。Michaela も私もほとんど緊張が解けてきて仲良くなれた感じがして楽しかったです。

でもそのあと事件が…！ Michaela とトイレに行って座席に戻ってみるとケータイがないことに気づいたのです。ありそうなところを探してもやっぱりなかったし、海外なので諦めてはいましたが、本当にショックでした。でもインフォメーションに掛け合ってくれたり、一緒に探すのを手伝ってくれたり、少しでも元気ができるようにオレオ入りのバニラアイスを買ってきてくれたりして、三人が本当に親身になってケアしてくれて…。迷惑をかけて申し訳ないことを伝えても全然大丈夫だよ！みつかるといいねって言ってくれて、こんなに素敵で優しいホストファミリーに受け入れてもらって自分は幸せだなと思いました。

さらに帰る車の中で、応援していたチーム Orlando Magic のロゴが入った T シャツと水筒をいつの間にか買ってくれていて、プレゼントしてくれました。とってまかっことよくてすごく気に入りました。家に帰ると Michaela がもう使っていない iPhone を貸してくれて、好きなように使って！と言ってくれました。まだ会って数時間しか経ってないのにこんな親切なことをしてくれて本当に心の底から嬉しかったし、心強かったです。色々な意味で忘れられない日になりました。

二日目は昨日渡せなかったお土産を渡しました。渡した瞬間 Wow! とナイスすぎるリアクションで喜んでくれました。そこで一緒に折り紙で鶴を折ったり、けん玉とお箸を教えたり、相手の名前の漢字を筆ペンで披露しました。特に漢字はみんな想像以上に喜んでくれて、次の日友達に自慢していました。私はその日の夜カレーを作ってあげようと思っていたので、ショッピング後は近くの

スーパーに行き、必要な材料などを買いました。そこでまた Camilla がカレーに使うものは私が買うわねと言って買ってくれました。本当に優しい。お米も鍋から作ったので時間がかかってしまったけど、なんとか作ることが出来て、おかわりもたくさんしておいしいと言ってくれてとっても嬉しかったです。とっても充実した一日でした。

三日目は終日学校を体験しました。Michaela にはお寿司が大好きすぎて頭に魚の帽子を被っていた男の子や、日本のマイナーな歌手が好きな女の子など、とても個性が強く面白い友達がたくさんいました。みんな大人っぽくて大学生みたいでした。「海外派遣で学んだこと」にも書いた通り、日本のスクールライフと全然違って新鮮でした。放課後はラクロスの試合を見に行きました。試合が終わって車に乗って帰ろうとしたら、昼間に会った友達がいて、日本語の歌詞の意味を英語にして教え、いくつかの日本語を教えてとても盛り上がり、結局1時間くらい立ち話をしました。途中分からない英語もあったけど、分かりやすい英語に変えてくれたりしてくれて、とっても楽しい時間をすごせました。



そのほかにも、家でゆったりドラマをみたり、100円ショップに行ったり、たくさんのショッピングモールに連れてってくれたり、オーランド内をドライブして案内してくれたり、犬の Boggle が夜中に私の靴を片方リビングに持って行っちゃって学校に行く直前にない！って騒いでみんなで笑ったり…などなどまだまだ書ききれないけど、ただの旅行ではできないような内容の濃い日々を過ごすことができました。ハプニングがあって自分の思うように写真がとれなかったのが一番悔しいです。でもホストファミリーと過ごした時間は、かけがいのない一生の思い出になりました。

ホストファミリーとの思い出

古室 早理

私のホストファミリーである Chapman 家の Emma は、昨年11月に Dr. Phillips 校から30人で浦安に来訪したメンバーのうちの一人で、その時に我が家にステイしていた2歳年上の高校生だ。浦安で Emma を迎えた日は休日だったのに、私は部活(ダンス)の全国大会に出場しており、彼女のお迎えに間に合わず、数時間後対面した時は、時差ボケの彼女が眠たそうにしていたっけ。

そして今回は、他の派遣メンバーがドキドキのホストとの初対面の中、今度は Emma が部活(水泳)で間に合わず、ママ1人が親しげな笑顔と Hug で私を迎えてくれた。

やりとりも続けていたので安心してホスト宅に向かったのだが、途中グロッサリーに寄り、ママが食事についてなど私に色々たずねてくれるものの、伝えたい言葉が出てこないことに少し焦る。なんとかコミュニケーションをとらなければ。英語を使うしかないこの状況に覚悟を決めて、楽しもうと思った。それから滞在中は頻繁に会話途中に待ってもらい、電子辞書を使って確認しあいながら会話を続けるようにした。

家に着いて早速、広大な backyard にてバーベキュースタイルで夕食をいただき、アメリカを実感する。Emma には、12歳の Amelia と8歳の Sophia という妹が居て、とても可愛らしい2人だった。少し経つと Emma が帰宅し、4ヶ月ぶりの再会を果たした。

次の日、テネシーから遊びに来たママの友人とその娘2人がさらに Chapman 家に加わり、女子ばかり8人の大所帯となり、午後から大西洋のビーチに向かった。天気が悪く寒かったが、妹たちは元気に走り回り、浦安で Emma が動画でみせてくれたアイリッシュダンスの実物を砂浜で披露してくれた。

その後、レストランに入り、フロリダ名物のワニのフライをいただいた。普段、日本ではトライしないであろう私だけど、異国に来たからこそ頑張って食べてみた。味は貝に似ている気もしたが、シュリンプの方が美味しかったのが本音だ。(笑)

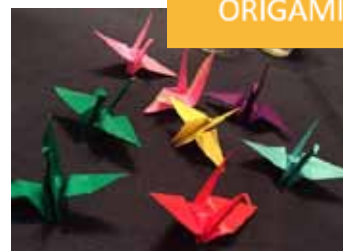
@URAYASU



3日目は、折り紙を説明し、私に続いてもらい8人で鶴を折った。妹たちも細かい作業を頑張って、最後に羽を開いて鶴になった時には歓声があがった。思った以上に反応が良かったので、カエルも折り、それでレースをした。みなノリノリで楽しい時間を過ごせたことが私にとっても大変嬉しかった。グッと近づけた気がした。思い切って提案してみても良かった。

4日目は Emma と Julia (来日時、我が家にも遊びに来た) が所属する水泳部の他校との水球の試合観戦。Dr.Phillips

ORIGAMI



WATER POLO



は部活に力を入れているだけあって男女どちらのチームも強く、初めて水球を見たが、なかなか楽しかった。私も「Yes!Yes!Go!Go!」と声を出して応援して、仲間になれたような気がした。夜にはテネシーの一家の娘さんの Wedding のビデオを観た。home party の様子が映画のように素敵だった。5日目はモールに連れ

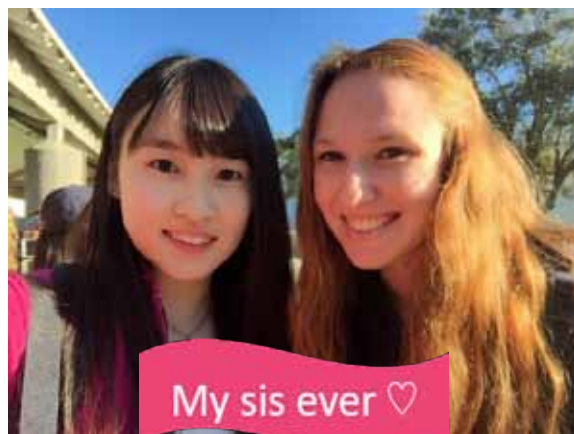
て行ってもらい日本へのお土産を買った。

6日目、Emma に送ってもらい、穏やかに笑ってお礼とお別れの挨拶をした。Emma は華やかな美しい顔立ちとは裏腹に自己紹介の欄に「I am quiet.」と記すくらい、もの静かな女の子。真面目で、勉強はもちろん、部活も頑張っていてその実績もすごい。学校や先生のこと、将来の希望、家族の事、主に真面目な話ばかり、浦安でもオーランドでもゆっくり沢山話すことができた。高校へは毎日 Emma の運転する車で一緒に登校したが、駐車場の専用のスペースに自分で描いたと来日時に写真で見せてくれた可愛い絵も実際に見れたのは、不思議な感覚だった。「また会おうねっ。」と誓って別れたが、3回目となる再会は意外にもすぐだった。

3日後、夕食中に私の忘れものを早速 Emma が届けてくれたのだ。そして、こちらからも渡すのを忘れていたと言って大量のママからのお土産を持ってきてくれた。

Chapman 家では、ただの旅行では出来ないような経験を沢山させていただき、感謝の思いでいっぱいです。いつもゆっくり話し、そして私が話すのを待ってくれた。ホテルに移動しないで、最後までうちから通えばいいのにと惜しんでくれた。

これからも連絡を取り合っていきたいし、4回目に会える日も、近いのかも知れないと思っている。Chapman family 素敵な時間を本当にありがとうございました



ホストファミリーとの思い出

箕部 晴心

私は、オーランドから浦安への派遣の時に、私の家に泊まった子の家に泊まらせてもらった。ホストシスターの Julia が日本に来たときは、もちろんとても楽しかったが、彼女は疲れやすいらしく、ずっと寝ていて、日本文化にも興味を示さなかった。なので、私はオーランドに行く前、正直そんなに期待はしていなかった。でも、空港に着くと、Julia は部活の試合でいなかったが、彼女のお父さんとお母さんが、手作りのウェルカムボードと風船を持って待っていて、私が近寄るとハグをして大歓迎してくれた。まさか、こんな歓迎を受けるとは思ってもいなかったので、とてもびっくりした。その後に Julia にも 4 か月ぶりに会ったが、彼女も驚くほど歓迎してくれた。そして、家では Julia の部屋はバスルームもついていて、テレビもあり、邪魔されることなくゆっくり休むことができるだろうと、私のためにわざわざ部屋を空けてくれた。彼女の部屋には、彼女が日本に来た時に浦安市からもらったコップや、私と一緒に撮ったプリクラが飾られていてとても嬉しかった。

彼女は一人っ子で、お父さん、お母さん、叔母さんと一緒に住んでいた。みんな本当に優しくて親切にしてくれた。

ステイ中はたくさんのところに連れて行ってもらった。毎日毎日、色々な所に連れて行ってきてとてもいい経験になった。改めて思い出すと、あの短い期間で信じられないほど多くの場所に連れて行ってもらったなと感じる。Disney Spring、オーランドアイ、有名人の蠟人形がたくさんある博物館、Sugar Factory、グロサリーストア、ディズニーホテル…。細かくあげるともっとある。Julia の部活の試合を見に行ったりもした。



ホストマザーもホストファザーもとても料理が上手な人で、晩御飯はいろんなところに連れて行ってあげたくて作ってあげる時間がないからと、毎朝とても豪華な朝ご飯を出してくれた。残していいよとも言われているのに、残したくなくて毎朝お腹いっぱいになっていたことを思い出す。

夜帰ってきてから、ホストマザーが家族全員のお気に入りだというチョコチップクッキーを作ってくれたこともあった。それを食べながら Julia とホストマザーと一緒に映画を見た。見終わったのは 12:30 で真夜中になってしまったが、おしゃべりをしながら、手作りクッキーを食べながら映画を見たあの時間は本当に楽しかった。

短い間にいろいろなところに連れて行ってもらったが、中でも一番記憶に残っているのは、最終日にディズニーホテルで晩御飯を食べたことだ。私が後日 Animal Kingdom に行くからと、Animal Kingdom と対になっている Disney's Animal Kingdom Lodge というホテルに連れて行ってくれた。そのホテルは敷地内で動物を飼っていて、ゆっくりとそれを見てからご飯を食べた。ごはんはとてもおいしかった。その後にホテルのキャストさんにみんなで写真を取ってもらった。写真はたくさん撮ったけれども、全員が写っている写真はそれが初めてだったのでとても嬉しかった。

帰る日は、ホストマザーとは学校に送ってくれた時にバイバイのはずだったのに、二時間目の後、私がバスに乗り込む前にわざわざ会いに来てくれた。その時に、みんなで食べてとクッキーとカップケーキをくれ、また会おうねと言って涙を流してくれた。

行く前は、正直不安だったけど本当に楽しかった。この家族に出会えてよかったと心から思う。いつかまた会いたい。この付き合いを大切にして長く続けて行きたいと思う。

ホストファミリーとの思い出

篠原 怜

3月11日 この日、オーランドに着いた。私はオーランドに2回行ったことがあったが、ひとりで行くのは初めてだった。私はホストファミリーに会うのが楽しみというより、正直緊張していた。空港でホストファミリーに会った時、私は声が震えていた気がする。笑顔で迎えてくれたので私は嬉しかったが、緊張が溶けて泣きそうになった。最初は質問されても何度も聞き返していたが、お母さんの Paula と Francesca は簡単な単語を使ったりゆっくり話したりして、私ができるようにしてくれた。私は知っている単語や文法を絞り出したが、分かってきているか不安になったり、失望されているのではないかと感じていた。

家に着くと、犬が2匹いて、ラブラドルと白のトイプードルだった。2匹ともとても可愛かった。お父さんの Pedro はお医者さんで、毎日仕事だった。彼女の家はとても大きくて、ちなみに車は外車が4台もあった(笑)私の部屋はゲストルームで、ダブルベッドと3人掛けのソファが2つと大きなテレビがあった。彼女の家族はペルー人で、家ではスペイン語を使っていた。

夕食はレストランに行って Francesca と同じものを食べた。とても多かったので2人とも半分残したが、バックに入れて持って帰らせてもらった。その日は帰るのが遅くなったのでみんなすぐに寝た。私も荷物の整理をして、すぐに眠りについた。

12日 この日は海の予定だったが、cycling と Disney Spring に行くことにした。朝、おばあちゃんの Eva が Francesca のいとこの Chiana を連れて帰ってきた。彼女は若干恥ずかしがり屋で、この日はあまり話してくれなかった。



cycling では近所を散策した。彼女の両親は cycling が好きなようで、自転車は何台もあった。自転車の椅子が高くて日本人との体型の差を実感させられた(笑)

帰ってきて、Disney Spring に行った。そこではディズニーストアに行ったりレゴストアに行ったりおやつチョコレートを買ったりした。ディズニーストアはとても大きく、日本で売ってないものが沢山あった。レゴストアでは弟の Mati が遊んでいた。家に帰り、プールに入った。彼女の家のプールは大きく、ジャグジーもついていた。この日は寒かったのでずっとジャグジーに入りながら Francesca と話していた。すると、ベランダで Pedro が肉を焼いていた。

夕食ができたのでジャグジーから上がると、夕食はハンバーガーだった。その後はこの日買ったチョコレートをデザートに食べて、MatiとChianaが始めた、笑っちゃいけないゲームをやった。順番に誰かをみんなまで笑わせるゲームだ。面白い顔をしたりギャグを言ったりして、本当に面白かった。とても温かい家族だと思い、心からこの家族がホストファミリーで良かったと感じた。



15日 夕飯はレストランに行くと言われた。私は荷物を詰めながら全員に手紙を書いた。書きながら寂しくなって泣きそうになった。荷物詰めが終わると、MatiとPaulaと遊んだ。

レストランでは、Paulaからプレゼントをもらった。中身はDisneyのコップとTシャツだった。そしてFrancescaから旅のお守りのブレスレットと手紙をもらった。私も皆に手紙を渡して、ひらがなで名前を教えたりした。

その日は夜遅くまでFrancescaとSNOWをしたり、おしゃべりをして、とても思い出に残る夜になった。

私のホストファミリーは皆、いつでも帰っておいでと言ってくれたり、第二の家族と言ってくれたり本当に優しく大好きだ。また絶対にOrlandoに帰ってきて皆ともっと英語で話をしたい。



今回の海外派遣では、貴重な経験を得ることができたと思う。ホストファミリーとの思い出はホストファミリーとの思い出で記述したので、ここでは派遣で訪れた中で最も印象的だった場所について、派遣団についてなどを書いていこうと思う。

この派遣で訪れた場所で私が最も印象に残ったのは、最終日に訪れたケネディ宇宙センターだった。行く前までは、“ロケットとかその他もろもろが見ることのできるアメリカの宇宙開発の一拠点”くらいのうすぼんやりとした印象しか持ってなかったが、到着して、NASA と書いてあるオブジェを見たときに、“ここはすごいところだぞ…”という気持ちがだんだんこみあげてきた。そして、派遣期間内で何回か遭遇していた金属探知機のゲートを通して、まず目に飛び込んできた 5、6 本のそびえたつロケットを見た瞬間に、宇宙開発分野にはまっていた小学生の時の気持ちが蘇り、一気に興奮状態に陥った。そして、そのロケットたちの写真を撮る暇もなく、バスに乗せられ、どれだけ広いか想像もつかない敷地内を巡るツアーに参加した。ロケットの組み立て工場(VAB)や巷で有名な SPACEX 社がリースで借りている場所を見学することができた。その後、白くてきれいな建物の前で突如バスを下ろされ、アポロ計画についての展示を見学することになった。またも、小学生の時に『アポロ13』を家で鑑賞し、アポロ計画には多少知っている気になっていた私は展示を見て度肝を抜かれてしまった。サターンVロケットの圧倒的な大きさ、アポロ1号の事故、下部が焦げ付いたアポロ14号、本物の月の石など、本やテレビでしか知らなかったことが自分の目を通して迫ってくる感覚は今までに経験したことがないものだった。

そして、サターンVロケットのある建物を去ったあと、バスに乗せられ次に訪れたのは、何やら見覚えのあるオレンジ色の巨大な燃料タンクが前にそびえたつ建物だった。その建物に入ると、まずスペースシャトル開発の歴史を紹介する映像(もちろん英語)を見せられた。つたない英語力ながら、その映像を見て人々がスペースシャトルにかけた思いに触れた気になり、ただただ感動していた。その感動が冷めやらぬまま、スクリーンの後ろにぼんやりと透けて見えていた白黒の物体が姿を現したとき、私はわずか17年の人生でなんと貴重な経験をしてしまったのだろうという気持ちに襲われた。何度も申し訳ないが、小学生の時に、向井千秋さんのご主人が書いた、向井千秋さんのスペースシャトル飛行にまつわるエッセイを読み、なんて面白いんだ!と思ったところから私の宇宙開発に対する興味は始まっていた。そのため、実際に飛行を経験したスペースシャトル「アトランティス」と対面した私はさほど館内が寒かったわけではないのに、鳥肌が立っていた。

ケネディ宇宙センターは、人生で行ってみたい場所の一つだったので、この派遣で訪れることができてよかった。また、訪れたことで、宇宙分野に対する興味が再燃したので、これからも注目していきたいと思う。

ケネディ宇宙センターについてのことを書きすぎてしまったが、ここから、派遣団について書こうと思う。

わずか 10 日間の短い派遣ながら、数えきれない思い出ができたと思う。派遣団のメンバーは個性があまりにも強く、また、自分が日々一緒にいる仲間とも違ったため、最初の頃は、自分は馴染めないのではないかと考えていたが徐々に仲良くなっていたので、とても楽しかった。些細なことで笑いあったり、プレゼンを急ぎょ決まった 2 回目に向けて改善していったり、ジェットコースターに全員で乗ったことはとてもいい思い出になった。私にとって、この出会いはずっと大切にしていけるものになった。

私がこの派遣で求められる役割を果たせたかどうか分かりませんが、この派遣に携わっていただいた全ての方に感謝したいと思います。本当に有難うございました。



ケネディ宇宙センター

海外派遣の思い出

八巻 遼

今回の海外派遣は、今までの人生の中で最も楽しいものだった。私は自信をもってこれを言うことができる。この派遣をそんな楽しいものにしてくれたのは、まぎれもなくメンバーと、企画してくれた職員の方たちのおかげだ。今回の海外派遣の10人は、全員個性的で、話しているだけで笑顔になれるメンバーだった。今回の派遣をこのメンバーで行くことができ、本当に良かったと思う。メンバーと行ったオーランド消防署、市役所、Zebra Coalition、ヒストリーセンター、ウィンターパーク、シーワールド、アニマルキングダム、そしてケネディースペースセンター、さらには移動中のバス。何から何までが本当に楽しかった。



事前研修は3回しかなかったため、ある程度までしか仲良くなれなかったが、実際に海外に行き、行動を共にして10人の仲はかなり深まったと思う。

シーワールドは、行く前、正直あまり期待していなかった。しかし、その期待は見事に裏切られた。日本では乗ったことのないくらい激しいジェットコースターに乗れて、本当に楽しかった。最も楽しかったジェットコースターは「MAKO」。オーランドで最も高く、最も長く、最も速いジェットコースターだ。今まで乗ったどのジェットコースターよりも激しく、最高だった。あまりの楽しさに、4回乗ってしまった。シーワールドにあったほかの2つのジェットコースターもとても激しいもので、楽しかった。





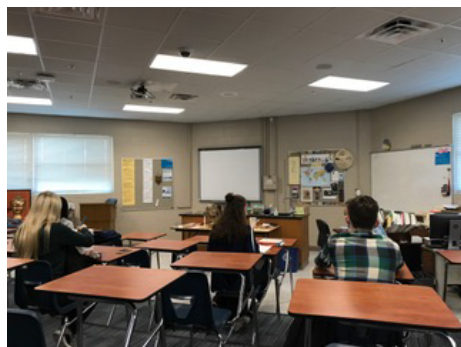
その次の日に行った、アニマルキングダムは、私が一番楽しみにしていたものだ。朝から行くことができたため、長い時間遊ぶことができて、本当に良かった。一番楽しかったアトラクションは、「エクスペディション・エベレスト」というジェットコースターだ。途中で逆走したりして、とても面白かった。また、「カリ・リバー・ラピッド」というアトラクションもとても楽しかった。このアトラクションは、円形のボートに乗って川下りをするアトラクションで、皆ずぶ濡れになっていて本当に楽しかった。アニマルキングダムは、とても混雑していたが、その混雑も忘れさせてくれるくらいメンバーとの会話が弾んだ。

ケネディースペースセンターは、幼いころから宇宙に興味を持っていた私にとっては、本当に興味深い場所だった。本物の宇宙服や、本物のスペースシャトルなどが置いてあって、とても面白かった。また、展示品だけではなく、実際に乗るアトラクションのようなものもいくつかあり、客が楽しめるように作られていた。

10日間、私は本当に楽しく過ごすことができた。9人のメンバーと、この派遣の参加を勧めた両親、市役所の職員の方々、ホストファミリー。すべての方々に感謝しています。

海外派遣の思い出 大日向 さや

私の海外派遣の思い出は普通の旅行ではできないことができたということだ。ホームステイをしたり、学校の授業に参加したり、派遣生、内田さん、加瀬さん、団長とディズニーや NASA に行ったり…。本当に貴重な経験になった。印象深く残っている経験は Dr.Phillips 高校で授業に参加したことだ。授業を受け



る前はかなり不安で「英語わからないのにどうしよう…」と思っていたが、アメリカと日本の学校生活の違いを大きく感じる事ができた。ほとんどの授業でコンピューターを使い、みんな積極的に発言していて日本もこうあるべきだなと思った。また、授業中にお菓子やご飯を普通に食べていて羨ましかった

(笑) Dr,Phillios 生は優しくフレンドリーな人が多くて私もここに通ってみたいなと思った。今、私自身も

高校生であるからこそ、アメリカの高校生との違いをより感じる事ができたと思う。本当によかった。ホームステイが終わった後も私がオーランドを楽しめた理由はもちろん他の派遣生、内田さん、加瀬さん、団長のおかげだ。事前研修の時はみんなでうまくやっっていけるか不安で、正直事前研修に行くのも嫌だった時もあった(笑)でも、オーランド



に行ったらそんなことはすっかり忘れていて、毎日を楽しんでいた。アニマルキングダムに行って疲れているのにも関わらず、プールに行ってみんなではしゃいだり、とにかく写真を撮ったりして、やっぱり同じ世代だから似たような感性を持っていてこんなに楽しめるんだなあと日々感じていた。今回の派遣生は本当に個性が強くてたまに個性に圧倒されることもあったけどこのメンバーでオーランドに来て本当に良かった。この



出会いに感謝！また、派遣でお世話になった全ての方々に本当に感謝しきれないほど感謝しています。浦安に住んでいて、今自分が高校生で、この派遣に応募して本当に良かった！！一生の、忘れられない最高の思い出！本当にありがとうございました！！



この派遣の思い出は主に 3 つある。1 つはホームステイのことだ。私はアメリカに行く前、ホームステイをすることがとても不安だった。今まで 1 人で海外へ行ったこともなく、外国人と 1 対 1 で話す機会もあまりなかったからだ。

しかし、実際にホームステイが始まるとそんな不安は吹き飛び、充実した楽しい日々だった。家はとても大きく、料理は美味しかった。温かいホストファミリーのおかげで私は素晴らしい経験をする事が出来たと思う。これからもホストファミリーとはクリスマスカードやバースデーカードを通じて連絡を取り続けたいと思う。そしていつかまたあの家に帰りたと思う。

2 つ目は、特別な経験を多く出来たことだ。今回、浦安市の派遣団としてオーランドに行ったことで、普段自分が旅行としてオーランドに行くだけでは間違いなく経験できないことを体験させてもらうことが出来た。

特に私が行けて良かったと思うところが、Zebra Coalition である。ここは LGBT を抱える子供や安全な場所がない子供に、「安全な場所」を提供する組織だ。この組織の興味深いところは安全な場所を提供するだけでなく、この組織がアパートを所有しているため、そこで生活させることもできる場所だと思う。なぜそのようなことが出来るかは、例えばそういう境遇にある子供達を救いたいと思っている方がいたとして、その方が不動産の方だった場合、良い物件をいただくという手助けの方法であったり、救いたいけれどどうしたらいいかわからないという方がこの組織に来れば、この組織がその人に合わせた手助けの方法を見つけ出し、助けてもらうという方法で成り立っているからだ。もちろん金銭的な寄付や政府からの援助金もあるが、そのような組織は今後必要不可欠な組織であると感じた。私は日本にもこのような組織はあるのか、自分に何か出来ることはないか調べてみたいと思う。

この貴重な経験から、アメリカと日本の違い等多くのことを学び、これからのものの見方、考え方に活かしていきたいと思う。

最後は、9 人の派遣生と出会えたことである。1 人 1 人個性が強かったが、互いに認め合い、協力し、浦安市の代表としての自覚をもって行動したことで結束を高められたと思う。それと同時に意識の高い仲間たちと行動することで私は多くの刺激を受けることが出来た。

私をリーダーとして認めてくれてありがとう。この派遣は大げさではなく、私の人生を変えるきっかけになりました。お世話になった方全員にお礼を申し上げます。ありがとうございました。



海外派遣の思い出

佐藤 亜美

今回、この派遣事業に参加してよかったことは、様々な人と交流ができたことです。オーランドで出会った人はもちろんのこと、一緒にオーランドに行ったメンバーとの交流はとてもよかったです。普段、女子校に通い、主に同学年としか付き合いがない私にとって、学年も高1から高3まで幅広く、通っている高校も異なる10人だったので、それぞれに価値観の違いがありました。その10人で8泊10日という長い時間を共に過ごしたことで、私の狭い視野が広がったように思います。まさに十人十色という四字熟語の通り、全員に強い個性がありましたが、いい意味でお互いに刺激し合えました。事前研修では緊張のせいか、全員が猫をかぶっていたせいか、お互いに打ち解けられていませんでしたが、オーランドに到着した頃には、みんな仲良くなり、いい関係が築けました。気が置けない間柄の友人が一気に10人もできました。



全員で行ったディズニーアニマルキングダムは特に印象に残っています。オーランドに出発する前に、ガイドブックでディズニーについて調べている時は、アニマルキングダムはただの動物園だと思っていて、全く期待していませんでした。正直、他のパークに行きたいとすら思っていました。ところが、実際に行ってみると絶叫系アトラクションもあり、そのレベルの高さに驚きました。例えば、エベレストというアトラクションは、東京ディズニーランドのビッグサンダーマウンテンに似ていますが、大きく異なる点は後ろ向きに走行するアトラクションであるという点で、みんなとても興奮していました。このアトラクションを丸ごと日本に持って帰りたくらいでした。あまりに楽しかったので、全員でこのアトラクションに2回も乗りました。アニマルキングダム内は各自、自由行動をしてよいと言われていたにも関わらず、ほとんどの時間は10人で行動していました。通常、人気テーマパークは大人数で行動しにくく、少人数で行動しがちですが、仲良くなった私たちは全員で行動していました。

アトラクションの待ち時間には全員で手遊びをして盛り上がりました。あまりにも楽しそうに、はしゃぐ私たちを周りにいた外国人が不思議そうに眺めていました。

浦安市内に住んでいる新たな友人ができたことはとても嬉しいことだと思いますし、今後もこのメンバーとの関係を大事にしていきたいと思います。そして、今回一緒にオーランドに行けなかった家族とも、いつかオーランドを再び訪れたいと思います。



海外派遣の思い出

小島 朋奈

ホストファミリーとも楽しい時間を過ごしましたが、海外派遣の仲間のみならずともとても楽しい時間を過ごしました。ホームステイ中、日本語を話す人が私しかいない環境の中でみんなに会える時間は、正直、安心のできるほっとした時間でした笑。みんなとの思い出を振り返ると、海外派遣初日に戻りたいなと思ってしまいます。たくさんある思い出の中でも特に印象に残っているのが、海外派遣7日目の日です。この日はアニマルキングダムに行き、夜には寒い中みんなでホテルについていたプールに入りました。アニマルキングダムでは、色々なアトラクションに乗ったり、ショッピングをしました。1番楽しかったアトラクションは、エクスペディション・エベレストというアニマルキングダムの名物のジェットコースターです。このジェットコースターは普通のジェットコースターとは違います。(なにが違うかはまだ知らない人のためにここには書きません笑)

ジェットコースターは好きでも、落ちるタイプのアトラクションが苦手な私は、乗る前はとても怖くて緊張していたのですが、いざ乗ってみると最高の気分でした！アニマルキングダムの名物に乗ったぞ！という達成感がありました笑。また、ライオンキングのミュージカルもお気に入りです。歌だけでなく、アクロバットなどの目の前で次々と繰り広げられるパフォーマンスの全てに圧倒されてばかりでした。有名な『Circle of the life』という曲や、私が個人的に好きな『Be prepared』という曲を生之歌で聞くことができ、感激でした。



アニマルキングダムには、本物の動物たちもいて、目の前の地面に小さなかわいらしいリスが通ったときは驚きました。他にも様々な種類の鳥(名前分からない笑)や、オランウータンが遊んでいて本当に動物の王国に来た気分でした。(アニマルキングダムという名前だけある！笑)



8時頃にホテルに帰ってきて、それからみんなでプールで遊びました。いつもこの時期は暑いくらいの気候のフロリダなのに、異常気象のせいで少し寒かったです。でも、写真を撮ったり、飛び込んだり、泳いだりして楽しみました。夜に屋外のプールに入って騒ぐなんて初めてだったので、すごくわくわくしていました。

ホテルの部屋で過ごした時間も楽しかったです。今までに買ったお土産を見せ合ったり、メイクをしたり、女子力が上がった気がします笑。写真もたくさん撮りました。(右の写真はルームメイトとケネディー宇宙スペースセンターで買ったトレーナーを着て撮った写真です)海外派遣中の写真を見返すと今でも楽しかったなあとにやけてしまいます笑。本当に素晴らしい思い出ばかりで、全ての瞬間がきらきらしていました。今回の海外派遣で、10人の仲間とたくさんの思い出を作り、たくさんの課題を乗り越えてきました。この仲間に出会えてよかったです。



(6日目に行ったシーワールドでの写真↓)



海外派遣の思い出

山中 恵里那

私はこの派遣に応募して本当に良かったし、この10人のメンバーで行けたからこそ楽しすぎる時間を過ごせたのだと思います。初めて顔を合わせたときは、朋奈ちゃんと早理ちゃん以外知らず、学年もバラバラで全員と仲良くできるか不安でした。でも派遣中、毎日毎日どんどんみんな素が出てきて仲良くなっていったって、学年も男女も関係ないくらいお互いをいじったり、くだらないことで笑って本当に心の底から楽しかったです。ケータイを紛失して、自分で写真も撮れなくて落ち込んでいたけど、一緒に写真撮ろう！と声をかけてたくさん写真とか撮ってくれて本当にありがとう。みんなのおかげでかなり救われました。このページではそんなみんなと過ごしたことをいくつか書きたいと思います。

～URAYASU ナイト～



前日はホストファミリーと過ごしていたので、久しぶりに日本語が通じるということでみんなと会った瞬間嬉しくて思わず笑顔がこぼれました（笑）プレゼン本番はどのグループも練習の時以上に頑張っていて、見ていたホストファミリーたちからも時々笑いが出てくるような素晴らしい発表になりました。後半の日本を紹介する遊びなども、盛り上がりました。派遣生のホストファミリーとも会話をして有意義な時間でした。

～エオラ湖散策～



この時はすごく晴れていて写真撮影にもってこいのスポットでした。この写真が個人的にすごく気に入っています。ガチョウも40匹くらいいて、真近で見れました。かわいかったです。

～オーランド消防署訪問～

施設はとても広く、清潔感もあってすごくきれいでした。実際に消防士の方が着ている服や道具はとても重く、よくこれで動けるなとつくづく尊敬しました。そのせいもあり、消防士の方々は日々体を鍛えているらしく、案内してくれたマイクをはじめ、みんな体がしっかりしていたので女子はもうメロメロでした（笑）中には女性の方も働いており、自分のやりたいことがしっかり決まっていてとてもかっこよかったし、輝いて見えました。

～シーワールド～

待ちに待ったテーマパークということで、この日はみんな朝から異常にテンションが上がっていました。一番楽しかったのは、全米絶叫！最新ジェットコースター5選に選ばれており、オーランドで最速のMakoです。高さ61mから落ち、なかなか下り続けるのが終わらなくて、ほんともうエキサイティングな乗り物でした。先頭に乗った時の景色は最高でオーランドを見渡すことができました。この時も男女間の友情が深まっていきました。

～アニマルキングダム～



とにかくどこを見ても緑で自然で溢れている素敵なテーマパークでした。乗り物の待ち時間はぱぴぷぺパピコゲームやコカ・コーラゲームをしました。パピコのゲームはみんなスラスラ言うのにあたふたして苦戦していたけど、部活でやったことがあるという八巻君は一人だけつかえずに言えていてみんなですごく笑いました。この日私は本当に一日中ずっと笑っていたと思います。楽しすぎました。

とても個性的で、優しく明るく面白いみんなが本当に大好きでした。最終日に、このまま日本に帰りたくない、もっとみんなと一緒にいたい、と思わせてくれた派遣生、随同行の団長、内田さん、加瀬さんには感謝しかありません。一生の思い出になりました。本当にありがとうございました。

海外派遣の思い出

古室 早理

ホストファミリーや研修を通して感じたことは自己紹介にも記したので、他のこと数点について書きます。

・Dr.Phillips 高校

ホストシスターの Emma が運転する車で毎朝一緒に登校した。広大な敷地と建物にも圧倒されたが、生徒に駐車場スペースが充てられて、高校生が運転して登校するという点は驚きだった。ランチも Emma は毎朝自分で調理して持っていく。Emma が年上なので、私は 1 人だけ最上級生のクラスで、さらに初日は 7 時間もあり不安だったが、実際には授業毎に教室もメンバーも変わり、新鮮で楽しかった。

全員に配られているノート PC が教科書やノート代わりでもあり、全ての授業で活用されていた。またスマホも自由に使用しており、軽い飲食も OK だが、だからと言って授業が乱れていたり、騒がしいというわけでもなく、自主性が程良く機能していたのが意外だった。



6 時間目の芸術の時間は Mr.Barrows 先生だった。先生は「彼女は 2 年前に日本に行った時に日本文化について説明してくれたんだよ。」と、クラスに紹介してくださった。その時のプレゼンの内容も詳しく覚えていて、私が日本の amazing さについて語っていたことから、

amazing girl と呼んでくださった。昨年秋にも浦安での Orlando night でお会いしたので、三度目だ。

2 年経って 20 時間以上かけて来たオーランドで、今度は私が Mr.Barrows の授業を受けている事が、点と点が繋がったような気がして、不思議な感覚だった。

Urayasu night では Dr.Phillips の生徒会長と話したが、彼は日本語を習っているとのこと。しかし、その教科書がなん

とも変な日本語でおかしかった。外からの視点で日本を見れたようで、印象的だった。

4 日間通った高校で、私を見かけると「Hi!Sari!」と声をかけてくれる生徒が出来たこともとても嬉しく感じた。自由が多い分、自主性に任されている高校生活は個人の責任も大きく、アメリカ社会らしいと思った。



• Kennedy Space Center



私が1番楽しみにしていた場所で、何もかもが大きいアメリカでも、やはり特にスケールが違い、何を見てもカッコ良くて、絵になっていた。

本物のシャトルや、発射台は見上げる程で、テレビなどの画像で見ているのでは伝わらない大迫力だった。歴代の宇宙服が展示してあり、シャトル発射時の角度や振動を体感できるライドもあった。特に33回の宇宙ミッションを経験したAtlantisは、機体の部位によって素材が違う事も分かる程の至近距離で見ることが出来た。機体は一部焦げていたり、ボロボロになっていて、実際に宇宙空間を旅して傷んで帰ってきたものかと思うとその臨場感に感

動した。

火星探査宇宙船「Orion」の研究の説明も受けたが、2023年に計画されている有人の探査ミッションは遠くない未来だと思うとわくわくした。



• 研修生仲間と。

学校も学年も違う10人でしたが、上級生の方々のおかげもあり、毎日会っているクラスメイトかのようなメンバーになれました。最初は緊張もしましたが、事前研修を通して、Urayasu nightでの発表の準備をするうちに、距離を縮めることができました。英語での現地の人との交流やチャレンジも楽しかったですが、異国でのハードなスケジュールの中、仲間と会ったり、話したりする時は、ほっと安心出来る時間でした。

この10人でオーランドに派遣生として行くことが出来て、本当に良かったです！今後もこの関係を大切にしていきたいです。

最後になりましたが、大塚団長、内田さん、加瀬さん、中島さんや地域ネットワーク課の方々、そして快く迎えてくださったオーランドの方々、関わってくださった全ての皆さんに感謝します。素晴らしい経験ができました。ありがとうございました！



@CITY HALL



My family♡

海外派遣の思い出

箕部 晴心

私は幼い頃アメリカに住んでいた経験から将来は、世界の人たちと関わる仕事がしたいと思っている。でも、そろそろ進路を決めなければいけない時期になってきて、本当にそれでいいのかという思いが生まれるようになった。だが、今回の海外研修で実際に海外に行き、自分の目で色々なものを見て、多くの人と関わったことで、自分はやはり世界中の人と関わる仕事がしたいと再認識することができた。また、その目標のためには、なるべく早く、英語を学ぶことをではなく英語を手段として学んだりすることを目的にできるような段階にならなくてはいけないなと思った。今回関わったオーランドの高校生たちと将来、今回とは違う仕事という場で関われば面白いのだろうなと思った。その時、対等な立場で関われるよう英語はもちろん、他のこともしっかり学んでおこうと思った。今回のこの派遣で海外の文化に触れたことで、海外の文化について学ぶことも大切だけど、母国である日本の文化について、きちんと学び説明できるようになることのほうが大切だなと思った。世界中の人と関わった時に、日本について誇りを持って説明できるよう日本についてもしっかり学んでいこうと思う。



私はこの海外派遣にこの仲間と参加することができて本当に良かったと思う。学校だったら先輩と呼びなかなが深く関われないような年齢の人たちもいてその人たちとも、沢山関わることができるとても楽しかった。また、最初は大人だからと距離を感じてしまっていた、地域ネットワーク課の団長や内田さん、添乗員の加瀬さんも一生に楽しんでくれたことがとても嬉しく、またとても楽しかった。この海外派遣に自分から応募し、参加することができた人たちはみんな自分をしっかり持っていて、個々のレベルもとても高かった。皆からは沢山刺激をもらい、皆についていけるように頑張ろうと思うことができた。この付き合いは長く続けていきたい。皆は将来どんどんすごくなり、さらに上に行くだろうから、自分もそれに負けないよう頑張ろうと思う。

10日間という長くはない期間だったが、本当に沢山のことに気づくことができたし、本当にいい経験になった。きっとこの経験は忘れないのだろうと思う。この派遣に参加させてくれ、貴重な経験を積ませてくれたことに感謝したい。そして、将来このオーランド市との姉妹都市交流、青少年海外派遣が長く続いていけるよう、なんらかの支援をしたいと思う。

海外派遣の思い出

篠原 怜

私はこの派遣に参加したことは、かけがえのない思い出になったと思っている。最初に母からこの話を聞いたときは、どうせ無理だろうけど実力試しとして受けてみようと思った。面接は初めてでとても緊張してしまって、自分でも何を言っているのか分からなかった（笑）でも合格通知を見て家で叫んで喜んでしまった。今まで部活一色だった自分の学生生活だと思っていたのに、部活の引退後に大きな楽しみが出来た。初めてこのメンバーの一覧表を見たとき、皆の学校名にとっても驚いた。こんなメンバーの中に入って行くのが本当に不安で前日までやっぱり派遣に行きたくないと親に駄々をこねていたのを覚えている。でも事前研修やプレゼンを通して、年齢や性別を超えて皆とだんだん仲良くなれたことが本当に嬉しかった。荷作りをしているときは皆と過ごす時間やホストファミリーとの生活を想像してわくわくしていた。



高校での体験授業では先生や友達が何を言っているか分からないこともたくさんあり、理解できない自分にイライラしたことも、授業後の市内視察の時に皆と日本語で会話することで安心したり不安を忘れられたりした。また、私は Instagram をしていたので、“インスタ映え”する写真スポットを見つけてはポーズをとったりした（笑）寒いのに Orlando 感を出すためにわざわざ

半袖になってピン写真を撮ったり、地面に胡座をかいたりとたくさんの人にカメラをお願いしてしまった。（ありがとうございました♡）

Sea world では絶叫好きがいたり乗れない子がいたりと分かれて行動することもあったが、日本では体験できない楽しいジェットコースターがたくさんあり、何回も同じ乗り物に乗った。いきなり女子高生になる引率の職員さんや、ジェットコースターで撮られた写真の顔がひどかったり、面白いことが多かった。

次の日の Animal Kingdom では、あまり怖い乗り物は無かったので皆で乗ることが出来た。あまり並ばない乗り物が多く、たくさん乗ることが出来た。その日の夜は皆でナイトプールに入った。まだ肌寒いのにプ



ールに入るなんて…と思ったが、せっかくだし皆行くというので入ることにした。でも皆で手を繋いでプールに飛びこんだり、寒すぎてプールから上がれなくなったのはとても楽しくて良い思い出になった。その日は同じ部屋だったさやと湯船にお湯を張って、日本から持ってきた LASH のバスボムを



入れて水着のまま2人で入り、いろいろな話をした。その後、寝なかった何人かで引率の職員さんとお世話になった添乗員さんに色紙を作った。段々と気付かないうちに、さやのベッドに4人も寝ていたり、皆、寝落ちしてしまい結局めどが付いたのは2時半だった(笑)。でも、皆の深夜テンションや寝ぼけているところが面白かった。



次の日のケネディスペースセンターは眠いと感じることもあったが、初めて見る大きな宇宙船や月の石などは、驚きと感動でいっぱいだった。同じ人間が築いた長く偉大な歴史に圧倒され、たくさんの人たちの思いが詰まった場所なのだと感じた。

この日の夕飯の時に、引率して下さった団長と内田さん、添乗員の加瀬さんに色紙を渡すと、内田さんが泣いてくれたのがとても嬉しくて私まで泣きそうになった。

この派遣にきて、毎日が濃くて充実していた。帰ってきて誰かに話したくて、親や友達に何回も同じことを話してしまったりしたけど、

それだけ自分の中で、まだ思い出として消費できないことが多すぎるということだと思う。この仲間に出会えたこと、ホストファミリーと出会えたことに、本当に感謝したい。私は一生この派遣を忘れないだろう。

最後に、この派遣に行かせてくれた両親と、私たちを引率してくれた団長、内田さん、添乗員の加瀬さん、この派遣に関わって頂いた方々に深く感謝しています。

本当にありがとうございました。

14.英語による日本紹介 各グループの発表資料

Group A 新田 陸人、開沼 優希、小島 朋奈

<p style="text-align: center;">JAPANESE LIFESTYLE</p> <p>Presented by Rikuto Nitta Yuki Kainuma Tomona Kojima</p>	<p style="text-align: center;">Get up! ☀️</p> <p>Ohayo</p>  <p style="text-align: center;">Good morning.</p>
<p style="text-align: center;">Itadakimasu</p> 	<p style="text-align: center;">uniforms 😍</p> 
	<p>Get up</p> <p>Breakfast 🍳</p> <p>Go to school</p> <p>Get ready to go to school</p> <p>Take classes</p> <p>Lunch break 🍔</p> <p>Club activities</p> <p>Go back home</p> <p>Take a bath</p> <p>Go to bed 😴</p>

Our schools



Classroom



You can buy almost anything whenever wherever.

vending machine



convenience store



Day off



Purikura ↓



Take off your shoes.

slippers



Neatly arrange my shoes that I took off.



Thank you for your full day of hard work.



Not only shower.



Let's get warmer while eating tangerines in winter.



Oyasumi
Good night.



End

Thank you for watching and listening!



Group B 八巻 遼、古室 早理、篠原 怜

JAPANESE SWEETS



Ryo Yamaki
Sari Furumuro
Rei Shinohara

1. DAGASHI



What is “Dagashi”?



d a g a s h i
駄菓子
Cheap Sweets



▲Dagashiya have a unique look.



▲Dagashiya often have large amount of dagashi.



▲ Many children enjoy buying dagashi.

POPULARITY RANKING OF DAGASHI

3rd



Baby Star Crispy Noodle Snack

POPULARITY RANKING OF DAGASHI

2nd



umai bo

POPULARITY RANKING OF DAGASHI

1st

Tirol Chocolate



2、RECENT JAPANESE SWEETS

① MATCHA KIT KAT



ETC...

“GOTOUCHI”



② NERUNERUNERUNE



MIX ! ! ! !



3. JAPANESE TRADITIONAL SWEETS

WA GASHI
和 菓子
Japanese Sweets



Spring



Summer



Winter



WHAT'S THE DIFFERENCE ??



Ingredient!!

Animal origin





Group C 山中 恵里那、箕部 晴心、佐藤 亜美、大日向 さや

Popular things for JK

Erina Yamanaka Harumi Minobe
 Ami Sato Saya Ohinata

女子高生

jyoshi **k**ousei
 ↓ ↓
 "girls" "high school students"

Matching Clothes



Why do JK wear matching clothes?

- To feel a sense of unity.
 - To enjoy more.
- etc...

Twins



Disney



pancake



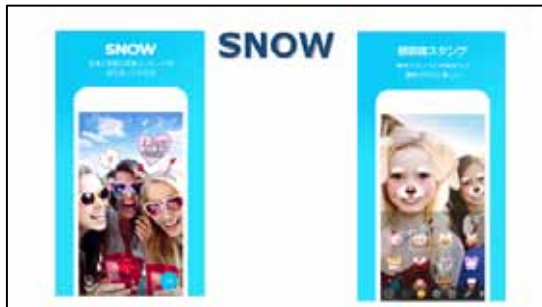
Fruit

Photo Culture

"Purikura" (Print Club)



No Purikura No Life!



15.浦安市青少年海外派遣事業のあゆみ

回	年度	派遣期間	派遣人数
1	平成2年度	12/23～1/3	15
2	平成3年度	7/29～8/9	20
3	平成4年度	7/22～8/2	10
4	平成5年度	7/23～8/3	12
5	平成6年度	7/22～8/2	12
6	平成7年度	7/21～8/1	15
7	平成8年度	7/26～8/6	12
8	平成9年度	7/20～7/31	12
9	平成10年度	7/21～8/1	12
10	平成11年度	7/21～8/1	12
11	平成12年度	7/29～8/9	12
12	平成13年度	8/18～8/29	12
13	平成14年度	8/17～8/28	12
	平成15年度	サースの影響により、安全重視のため中止	
14	平成16年度	8/14～8/25	14
15	平成17年度	8/13～8/24	14
16	平成18年度	3/21～3/30	14
17	平成19年度	3/21～3/30	14
18	平成20年度	3/20～3/29	15
19	平成21年度	3/19～3/28	15
20	平成22年度	震災の影響により、延期	
	平成23年度	3/16～3/23	13
21	平成26年度	3/14～3/21	10
22	平成27年度	3/12～3/19	10
23	平成28年度	3/11～3/20	10
合 計			297



企画・編集：浦安市市民経済部地域ネットワーク課
〒279-8501 千葉県浦安市猫実 1-1-1
発行：2017年7月